週刊 YEARBOOK

1974
昭和49年

日録20世紀

9|30
平成9年9月30日発行
(毎週1回発行)第1巻第31号
¥560
講談社

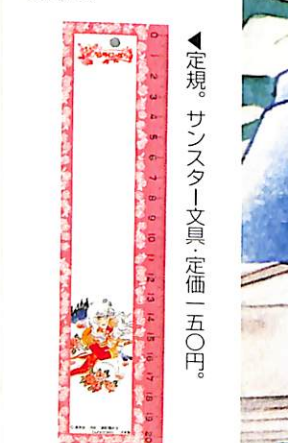
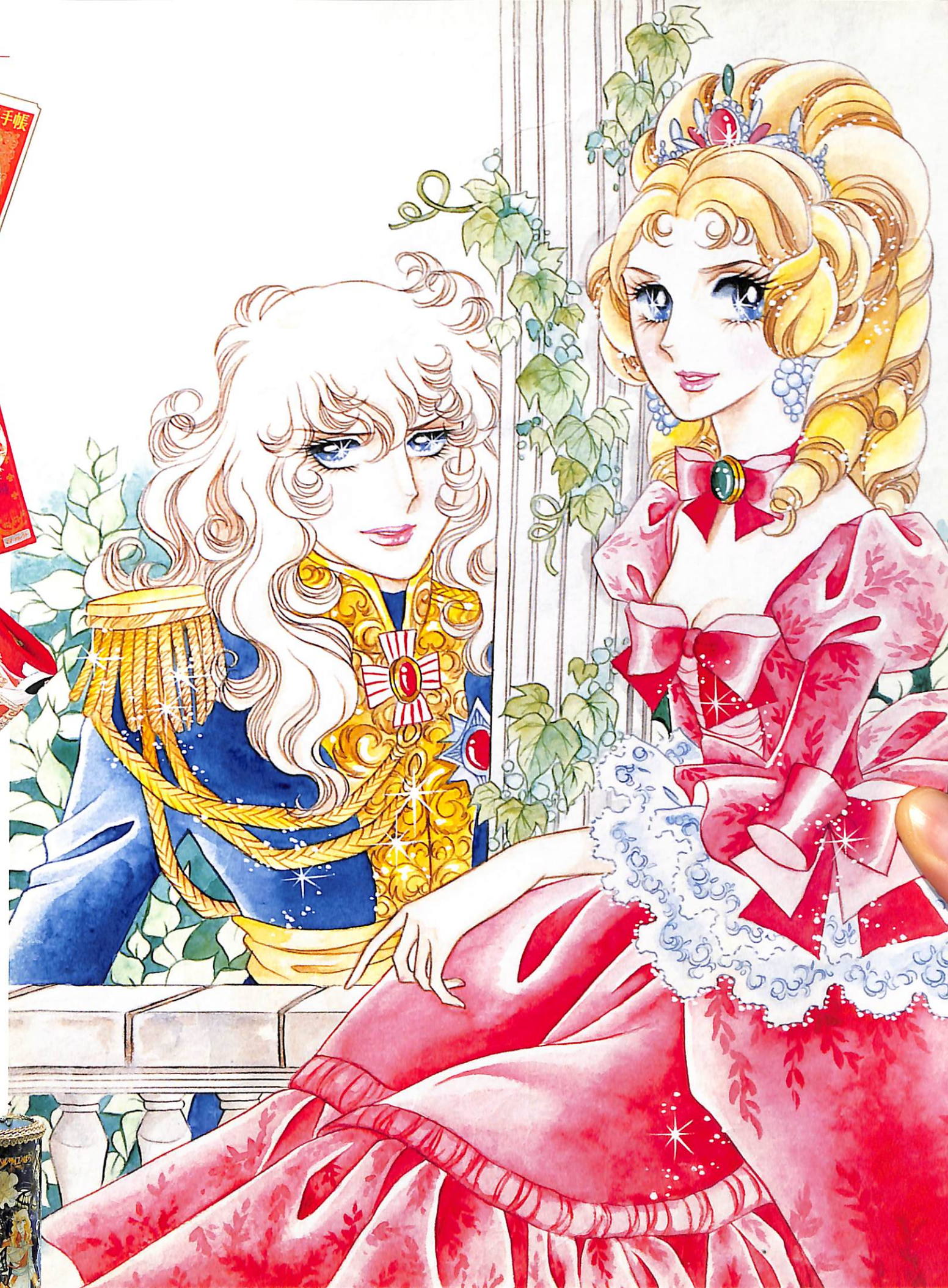
「ベルばら」ブーム!

立花「金脈レポート」、田中内閣にトドメ
「セブン-イレブン」1号店オープン!
"大統領の犯罪"でニクソン辞任

▲「ベルサイユのばら」手帳。読者プレゼント用に作られた。

▶ペンケース。サンスター文具・定価八〇〇円。

▲財布。パトラ・定価600円。小・中学生向き。

◀定規。サンスター文具・定価一五〇円。

◀ペン立て。サンスター文具・定価300円。

▲「ベルサイユのばら」の原画。「週刊マーガレット」昭和47年5月21日号から、48年12月23日号まで82回にわたって連載され、女性読者の圧倒的支持を得た。 池田理代子

◎表紙　昭和49年3月10日、フィリピン空軍のレーダー基地に姿を現した小野田寛郎元陸軍少尉。 平田一八 読売新聞社

「ベルばら」は宝塚の舞台でも大ヒット!
里中満智子、池田理代子、萩尾望都……
少女マンガブームを支えた「24年組」の闘いの日々

▼昭和51年3月、宝塚大劇場で初日をあけた星組「ベルサイユのばらⅢ」の公演。オスカル（左・榛名由梨）とアントワネット（右・初風諄）の豪華衣装が話題に。 吉田敏昭

この年八月初演の「ベルサイユのばら」は、「マンガが原作なんて」と言われながらも、宝塚歌劇団始まって以来の大ヒットとなる。さらに少女マンガ誌の創刊ラッシュが始まり、二〇歳そこそこの少女マンガ家たちは一大ブームを巻き起こした。しかし、その裏側には彼女たちの「闘いの日々」があった。

「ベルサイユのばら」が、宝塚歌劇の歴史を変えた

「きゃーっ、オスカルさまぁー」

昭和四九年八月二九日から始まった九月公演の間、宝塚大劇場のまわりは連日、ファンの黄色い声に包まれていた。演目は、フランス革命を舞台に男装の麗人オスカルや王妃マリー・アントワネットらの愛と悲劇の人生を描いた大河歴史ロマン「ベルサイユのばら」。原作は四七年から「週刊マーガレット」（集英社）に連載されていた池田理代子（二六）の少女マンガだった。

「いつもの公演と違うなと思ったのは、ファンの声援がスターの名前や愛称ではなく、登場人物の名前だったことです。マンガの読者が多かったからではないでしょうか」と語るのは、当時、宝塚歌劇団の出版部長だった橋本雅夫氏。

宝塚史上初めてのマンガ原作ということで、古いファンからは「マンガを宝塚の舞台にかけるなんて恥ずかしい」と反対の声もあがっていた。しかしふたを開けてみれば、「北海道や沖縄から来た女の子たちが、当日券がなくて泣き出す始末。仕方がないからテレビモニターで観

「ベルばら」は宝塚の舞台でも大ヒット！ 里中満智子、池田理代子、萩尾望都……

少女マンガブームを支えた「24年組」の闘いの日々

劇してもらった」（橋本氏）というほど、宝塚始まって以来の人気を呼んだ。

「『ベルばら』以降、地方公演はどこへいっても満員。『歌劇』などの雑誌の購読者も増加して、発行部数は、四万部から二〇万部になりました。『ベルばら』は、宝塚の人気が全国的に広がっていくきっかけになったのです」（橋本氏）

六〇年の伝統を汚すどころか、平成元年の公演まで通算すると、上演回数約一二〇〇回、延べ三〇〇万人もの観客を集めた「ベルばら」は、宝塚の看板作品となったのである。

少女マンガの枠を越えた「ベルばら」のヒットは、少女マンガ時代の幕開けを告げた。四九年六月に、マンガ専門出版社の白泉社が「花とゆめ」を創刊すると、五〇年には「プリンセス」（秋田書店）、五一年には「LaLa」（白泉社）、「プチコミック」（小学館）など別冊、増刊、姉妹誌などを含めた少女マンガ誌の創刊ラッシュが始まる。四八年には月刊、週刊合わせて一〇点だった少女マンガ誌は、五二年には二六点と約三倍に増加し、少女コミック誌の総発行部数は年間二億部を超えるまでになったのである。

"大泉サロン"が生んだ少女マンガの新しい波

こうしたブームを支えたのは池田理代子のほか、常時五人のアシスタントをかかえ週八本の連載をこなしていた里中満智子（二六）、さらに「新感覚派」と呼ばれた萩尾望都（二五）、竹宮恵子（二四）、山岸凉子（二六）、大島弓子（二七）ら昭和二四年前後に生まれた「二四年組」と呼ばれるマンガ家たちだった。

しかし彼女たちの活躍の裏には厳しい闘いの日々があったと証言するのは、昭和四五年に上京した萩尾、竹宮とともに、東京都練馬区南大泉のアパートに暮らしていた小説家の増山のりえ氏（現・四七歳）である。

「当時、少女マンガの世界はとにかく制約が多かった。SFや時代ものはだめ。男の子を主人公にしてはだめ。女だからと読者もマンガ家も馬鹿にされていたんです。原稿料は安く、マンガ家は使い捨て。"女工哀史"って呼んでましたよ」

こうした状況を打破するための拠点となったのが、後に"大泉サロン"と呼ばれたこのアパートだった。「出入り自由」の"サロン"には山岸凉子、山田ミネコ（二二）、ささやななえ（二〇）、伊東愛子（一八）などの新進少女マンガ家たちが集まり、日夜、切磋琢磨していたのだ。

「いつも七、八人がコタツを囲んでいましたね。どうやって編集部の頭の固さをほぐすか、少女マンガを映画や小説と肩を並べるものにするにはどうしたらいいか――。徹夜でディスカッションしたり、泣き出すまでお互いの作品を批評し合ったりしていました」（増山氏）

少年を主人公とした作品を掲載するために、締め切りギリギリまでできていないと編集者に嘘をつき、掲載せざるをえなくするなどの実力行使にも訴えた。

「七〇年安保の影響が多分にあったと思います。社会変革を求めて学生たちは体制にぶつかりましたが、私たちもマンガ界の壁にぶつかっていったんです」（増山氏）

かつて石森章太郎や赤塚不二夫、藤子不二雄らが集まった「トキワ荘」の少女マンガ版とも言える大泉サロンは、四七年に「発展的解消」するが、五一年に「ポーの一族」「11人いる！」で萩尾が、五五年には「風と木の詩」「地球へ…」で竹宮が、これまで少年マンガが受賞し続けてきた小学館漫画賞を相次いで受賞する。大泉のアパートに集まった少女マンガ家たちが、少女マンガ界を一変させたのだ。

「七〇年代はウーマンリブに象徴されるように、『少女性』に対する考え方が変わりつつあった時代です。その中で『二四年組』は、自分の描きたいものを前面に打ち出して、たんなる娯楽作品ではない文学的とも言える作品を次々に生み出していった。彼女たちの自己表現の斬新さが、読者から熱狂的に迎え入れられたのです」（評論家・村上知彦氏）

▲16歳でデビューした里中満智子は、この年「あした輝く」と「姫がいく！」で講談社出版文化賞（児童まんが部門）を受賞。

▲竹宮恵子「風と木の詩」。「週刊少女コミック」連載。

▲山岸凉子「アラベスク」。「りぼん」連載。

▲萩尾望都「ポーの一族」。「別冊少女コミック」掲載。

▲大島弓子「綿の国星」。「LaLa」連載。

▲池田理代子「ベルサイユのばら」。四〇〇万部売れた。

多様化した少女マンガのジャンル

「24年組」と呼ばれた若い世代のマンガ家が活躍した70年代は、ラブコメディ、学園もの一辺倒だった少女マンガの世界が多様化した時代だった。

中でも最大のジャンルを形成したのが、「ベルばら」に象徴される「外国もの」だった。この分野の代表作はロシアのバレエ界を舞台にした「アラベスク」（昭和46年／山岸凉子）、古代エジプトを舞台とした「ファラオの墓」（昭和49年／竹宮恵子）など。

少女マンガ史を画す「少年愛もの」が生まれたのもこの時代。西ドイツの寄宿学校を舞台にした「少女の登場しない少女マンガ」＝「トーマの心臓」（昭和49年／萩尾望都）、少年愛ブームを生んだ「風と木の詩」（昭和51年／竹宮恵子）は、今でも名作との評価が高い。

さらにスチュワーデスをめざす少女の青春物語「アテンションプリーズ」（昭和45年／原案・上条逸雄、画・細川知栄子）などの「仕事もの」は、一時影をひそめていたが、80年代なかば、キャリアウーマン時代の到来とともに「元気でおばかな」等身大のＯＬを描き出すことによって復活した。

●創刊相次ぐ少女マンガ誌

▲「りぼん」。昭和三〇年九月創刊、集英社。

▲「なかよし」。昭和三〇年一月創刊、講談社。

▲「週刊マーガレット」。昭和三八年五月創刊、集英社。

▲「週刊少女フレンド」。昭和三八年一月創刊、講談社。

▲「花とゆめ」。昭和四九年六月創刊、白泉社。

▲「少女コミック」。昭和四三年五月創刊、小学館。

「文藝春秋」六六万部を完売

〝今太閤〟田中角栄、二年半で内閣崩壊！立花隆「金脈レポート」がトドメに

▲11月11日、官邸で田中角栄首相の記者会見が行われた。田中系列企業が土地の買収、転売で不当な利益を得ていることを追及され、首相は違法行為はないと釈明。写真は東京・銀座のソニービルで、会見の中継に見入る人々。　毎日新聞社

「九」の数はよほど大物政治家にとって鬼門らしい。昭和二九年の吉田茂内閣、三九年の池田勇人内閣に続き、〝今太閤〟ともてはやされた田中角栄首相が辞任を表明したのは、昭和四九年だった。史上初の米国大統領来日（一一月一八日〜二二日）という晴れ舞台の直後の出来事。一体何が、権力の座に執着した首相に辞任を決意させたのか。

角栄の集金システムにメスを入れた立花論文

「ボヤだと思っていたんだが、まるでヤマトタケルノミコトが、枯れ野で火に囲まれたようなものだ。クサナギノツルギ（解散）を振るえば血路を開けんこともなかったが、世の中、できることとできないことがある……」

昭和四九年一一月二六日に約二年半におよぶ政権の座から降りることを表明した田中角栄首相（五六）は、顔面神経痛で顔をゆがめながら、側近に苦しい胸の内を語った。金脈疑惑の火の手に打つ手もなく、茫然自失のまま心身ともに限界に近づいた角栄のあきらめとも、開き直りともとれる呟きだった。

現職の総理大臣がスキャンダルで退陣という前代未聞のドラマの発端になったのが、この年一〇月九日に発売された「文藝春秋」一一月号の記事である。これは「田中角栄研究―その金脈と人脈」と「淋しき越山会の女王〈もう一つの田中角栄論〉」（児玉隆也筆）の二本からなり、特に前者は、四七年の総裁選挙で三〇億〜五〇億円、四九年の参議院選挙では五〇〇億〜一、〇〇〇億円を配ったとされる角栄の集金システムに、立花隆（三四）がメスを入れた力作だった。

当時、取材班に参加したノンフィクション作家の小林峻一氏は、「立花さんの指示のもと、約二〇人の取材班は幽霊企業班、献金企業班などに分かれ、あらゆる原資料、謄本をあさって角栄をめぐる企業、土地、人脈を調べあげました。立花さんは続々と集まる情報を相関図やチャートで視覚化しながら、角栄の裏金作りの全体像に迫っていったんです」と振り返る。雑誌がこれだけの人手を使って徹底取材を行うのは初めてのことで、立花の記事は、断片的に知られていた角栄の土地転がし、利益隠しの全体像を白日のもとにさらした。

実際、角栄が〝ボヤ〟にたとえた記事の波紋は徐々に広がり、野党は真相追及のための調査班を結成。「ニューズウィーク」（一〇月一四日号）や「ワシントン・ポスト」紙（一〇月一九日）など外国の雑誌や新聞も記事の内容を伝えた。

「退陣の決定打になったのは、一〇月二二日に開かれた外人記者クラブの会見です。田中首相が外人記者から攻めたてられたことで、金脈疑惑は日本の新聞のトップ記事になり、一気に政治問題と化し

▶一一月二六日午後一時五分、辞意を表明し、首相官邸を後にする田中首相。　朝日新聞社

◀田中首相の私邸は、"目白御殿"と呼ばれ、池には郷里の新潟から贈られた時価数百万円の錦鯉が群れをなしていた。 毎日新聞社

たのです。『文藝春秋』六六万部が完売し、記事のコピーまで出まわるなんて騒ぎは初めてでした」と語るのは当時の編集長で、文藝春秋最高顧問の田中健五氏である。

それだけに「田中側近の金丸信が『一部三〇〇円として一〇〇万部なら三億円。全部買い取っても安いもんだ』と豪語した」、「二階堂進自民党幹事長が文春首脳部に圧力をかけた」などさまざまな噂も流れた。政治的な圧力については、田中元編集長も「直接的な圧力の有無は別にしても、政府高官が当時の沢村三木男社長や編集長の私を訪ねてきたのは事実」と認めている。

一般市民の反応も鋭く、「文藝春秋」編集部を激励する電話は鳴りっぱなしで、中には「よくやってくれました」と泣き出す主婦までいたという。こうして燃え広がる金脈批判を反映し、四七年の内閣発足時に史上最高の六二％だった支持率は一二％にまで急落した。

財界や国民、家族からも総スカンで"退陣"を決意

一方、田中首相は「違法行為はしていない」と弁明を続け、一一月一一日には内閣を改造、中央突破を試みるなど強気の姿勢を見せたが、結局は政権を放り出さざるをえなかった。ポスト田中は、本命の福田赳夫や大平正芳らの思惑が錯綜。椎名悦三郎副総裁のいわゆる"椎名裁定"によって、次期総理に三木武夫が決まったのは一二月九日のことだった。

この内閣崩壊について「記事にトドメを刺された形だが、実はその前から、自民党内での田中内閣の基盤は揺らいでいた」と分析するのは、政治評論家の浅川博忠氏である。

「まず、田中首相が功名心から性急に取り組んだ日中国交回復で党内の台湾擁護派を切り捨てたのが、痛かったですね。四七年の衆議院選挙と四九年の参議院選挙で惨敗をしたのも致命的です。特に四九年の参院選では空前の金権・物量選挙を展開して七議席差の与野党"伯仲"状態を招き、三木武夫副総理と福田赳夫蔵相が閣外へ去り倒閣に転じるというオマケまでついた。この時点ですでに内閣は危うかったのです」

折しも、角栄の『日本列島改造論』が発端となった全国的な地価高騰や狂乱物価に起死回生の策を打ち出せない時期に、田中ファミリー企業が逆にこの土地投機ブームに便乗しつつ巨額の利益をあげ、利権供与を受けていたことをあばいた立花「金脈レポート」だっただけに、国民から総スカンを喰う四面楚歌の中で、辞任を余儀なくされていったのだった。

「外人記者クラブの会見で失敗した時から、田中首相は退陣を意識していたと思います。ただ、フォード大統領の初来日を無事にすませたい気持ちから、内閣改造を打ち出したのでしょう。もちろん、批判がおさまったら総理に返り咲く肚だった。"一歩後退、二歩前進"で思惑を反映させやすい小派閥の三木さんを首相に選ばせたのです」（浅川氏）

まさに、再起に向けた序章が角栄の辞任だったわけだが、五一年のロッキード事件発覚によって表舞台に再登板する芽を摘まれてしまう。その後、彼は闇将軍として院政を敷き、歴代の"角影政権"を掌握。竹下登、金丸信、小沢一郎らの田中門下生が駆使した「権力の二重構造」の元祖的存在になっていくのである。

▲田中首相退陣のきっかけを作った「文藝春秋」11月号。 共同通信社

▲昭和50年6月、金脈問題で記者会見する立花隆。 毎日新聞社

女たちの肖像

ミニ・シアターでヒット連発！興行界の常識をくつがえした高野悦子の"映画に猪突猛進"

稲葉真弓

日本のミニ・シアターブームに先鞭をつけた「エキプ・ド・シネマ（映画の仲間）」が発足したのはこの年の二月。海外の埋もれた名画を発掘し、二二〇席という「岩波ホール」で上映するという試みは、大作のロードショーが主流になっていた映画興行界では異例のことだった。創設にかかわったのは、岩波ホール総支配人の高野悦子（四四）と東和映画の副社長・川喜多かしこ（六五）だったが、彼女たちが男性主導の映画界に投げかけた波紋は大きかった。

第一回上映作品はサタジット・レイ監督のインド映画「大樹のうた」。以後、高野はヴィスコンティ監督の「家族の肖像」や「ルードウィヒ――神々の黄昏」、謝晋監督の中国映画「芙蓉鎮」、リンゼイ・アンダーソン監督の「八月の鯨」を次々とヒットさせ、"興行界の常識"をくつがえすと同時に小劇場の可能性を開いたのである。

「エキプ・ド・シネマ」の上映作品は、アジア、アフリカなど多彩だが、高野のインターナショナルな視野は、父親が満鉄の技師だった関係で、昭和四年旧満州（中国東北部）に生まれ、ハルビンで白系ロシア人の建てた壮大な屋敷に住み、ロシア人、ドイツ人など多国籍多人種に触れて育ったこと無縁ではないだろう。

そもそも高野悦子が映画界に足を踏み入れたのは、日本女子大社会福祉学科に在学中、主任教授だった社会心理学者の南博から、"日本映画"を研究テーマとして与えられたことにあった。映画に開眼した彼女は二八年東宝文芸部に入社。しかし"見て分析する"仕事に飽きたらず、監督をめざし配置転換を申し出るが却下され、ならば勉強のできる場所に行こうと、三三年パリ高等映画学院（ＩＤＨＥＣ）に入学。フランス語をわずか三ヵ月で習得、入学時はビリの成績だったのが、卒業時は首席という猪突猛進ぶりは半端ではない。

帰国後は映画、テレビドラマの演出、脚色にたずさわったが、昭和四三年、岩波ホールが創設された時、劇場関係では日本初の女性総支配人に抜擢された。「あそこは支配人が女だからつぶれる」と陰口をたたかれつつ、劇場を支えて二九年。映画人生もやがて五〇年を数えるが、その間ブルーリボン特別賞、菊池寛賞、芸術選奨文部大臣賞などを受賞。最近では、小栗康平監督の「眠る男」を大ヒットさせるなど、上映作品は一四〇本、三六ヵ国にのぼっている。

▲著書に『シネマ人間紀行』など。

勝者・敗者

陽気なエンターテイナー"ジャンボ"尾崎グランドスラムを達成！

阿部珠樹

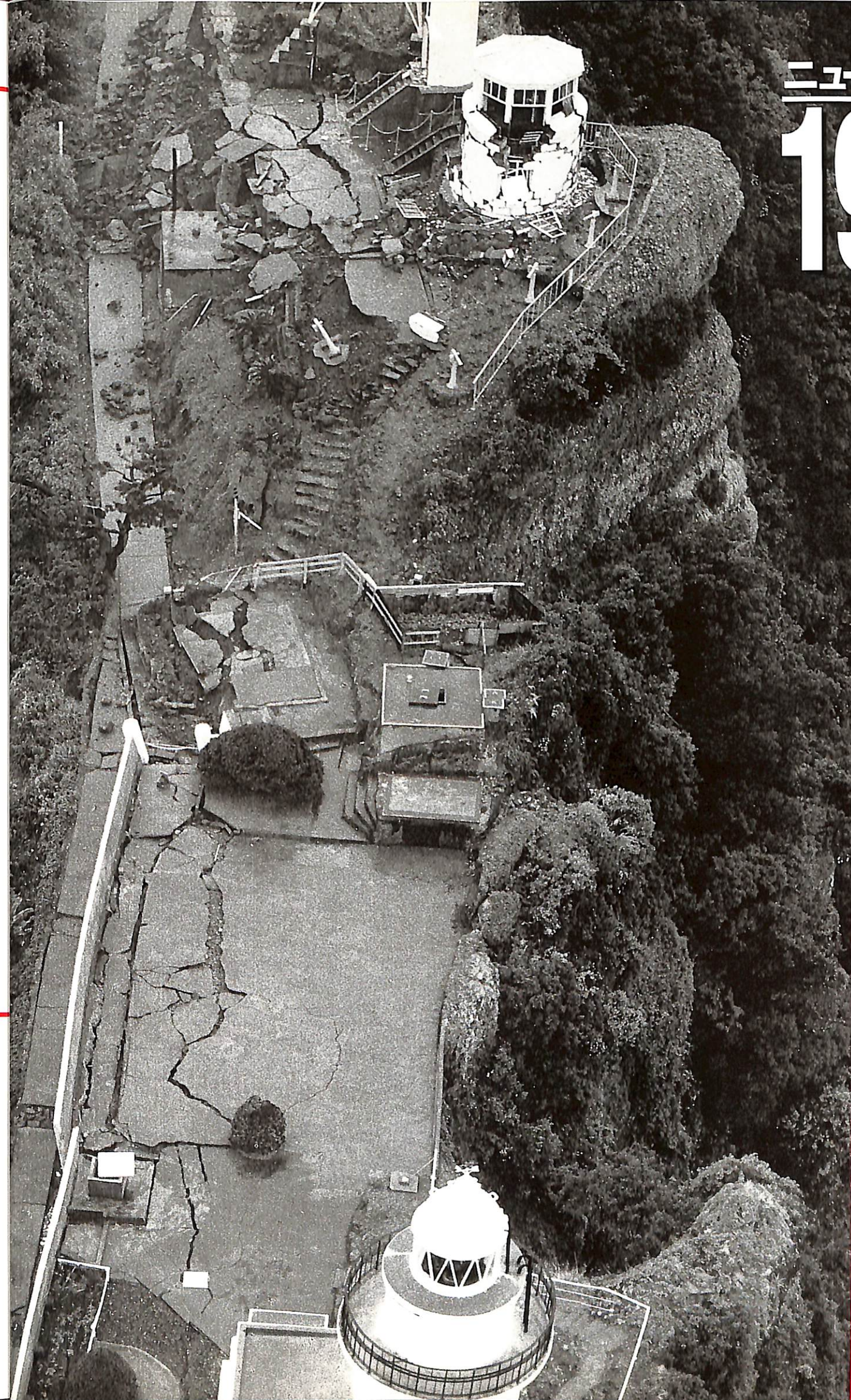
"ジャンボ"

七〇年代に日本の空を飛び始めた超大型旅客機のニックネームが、そのまま尾崎将司のニックネームになった。当時のゴルファーとしては珍しい一八〇㌢を超える長身。その体をいっぱいに使ってたたき出すドライバーショットは軽く三〇〇㍎を超える。そして、大きなショットに劣らない大きな口。自信にあふれたコメントは、謙虚さこそ美徳とされてきたスポーツマンのイメージを打ち破るものだった。

プロ野球の落第生からゴルファーに転向した尾崎は、昭和四六年、メジャータイトルの日本プロを制してツアー初優勝を飾る。翌年からは二年続けて賞金王を獲得、ゴルフ界を"ジャンボ"一色に塗りつぶした。そして四九年、早くも第一期黄金時代とも言うべき、ピークの年を迎える。

シーズン幕開けのマスターズでは予選落ちとふるわなかったが、夏になると徐々に調子を上げ、東北、北海道で二勝、八月一五日からの日本プロにのぞむ。プロ初優勝を飾った縁起のいいこの大会は尾崎の独壇場だった。初日からトップに立つと、三日間連続六〇台のスコアで独走、最終日は七三をたたいたものの、"コンコルド"青木功（三二）を三打差以内に近づけることなく優勝を飾った。すでに関東オープン、関東プロも制している尾崎は、九月の日本オープンに勝てば、史上六人目のグランドスラムの達成である。

九月二六日からの日本オープン。普通なら重圧のかかる試合である。だが、二七歳の"ジャンボ"には、重圧など無縁だった。またしても初日から六〇台のスコアを三日間続け、首位を走る。試合はぴったり追撃する村上隆との一騎打ちとなったが、最後は尾崎の若さが勝った。テーブルクロスのような派手なチェックのパンツで最終ホールに向かう尾崎を、観客は大きな歓声で迎えた。人々はそこに、ただ勝つだけでなく、スポーツに陽気な新しい時代の風を送りこむ、不思議な力を持ったエンターテイナーの誕生を見たのだ。

◀9月29日、日本オープンを制した尾崎は、副賞の車の上に乗り、優勝カップをかざしてギャラリーの拍手にこたえた。 共同通信社

◀**一生と寛斎そろい踏み（1月29日）**世界的デザイナーの二人が、三宅一生の作品をやまもと寛斎が演出することで協力、東京・代々木でショーを開いた。「健康に注意しよう」がテーマ。モデルたちが舞台狭しと跳ねた。

▼**さようなら「黄金の足」（1月1日）**三菱重工の俊足ウィング・杉山隆一が、東京国立競技場の全日本サッカー選手権決勝戦、対日立戦優勝を最後に引退。写真は同僚の肩車で場内を1周する杉山。

朝日新聞社

▶**サウジアラビアのヤマニ石油相、石油戦略を語る（1月29日）**26日に来日し日本に2国間直接取引を要請。この日東京の日大で講演し、国際石油資本の横暴さを強調した。

◀**長崎の「軍艦島」経営悪化で閉山（1月15日）**三菱炭鉱端島鉱は、周囲1.2キロをコンクリート壁で囲った特異な外観で知られた人工島だが、この日84年の歴史を終えた。

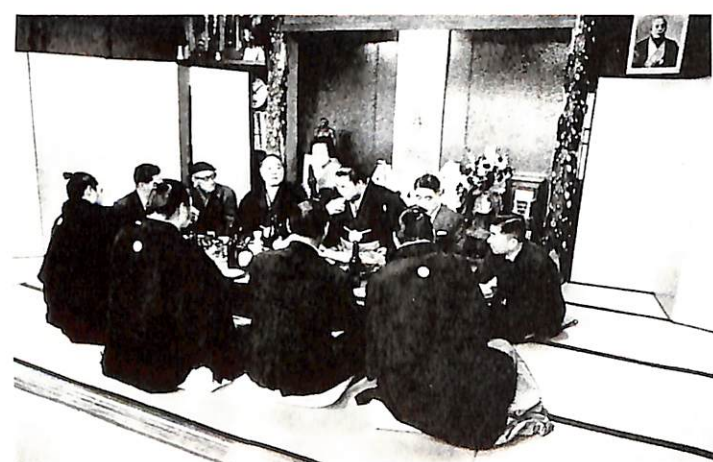
朝日新聞社

朝日新聞社

朝日新聞社

◀**20歳のヤング大関、北の湖誕生（1月23日）**初場所14勝1敗で初優勝し、推挙された。また3場所後の7月、21歳2ヵ月で史上最年少横綱となった。写真は三保ケ関部屋での祝宴。

WWP

◀**東南ア歴訪の田中首相に反日デモ（1月7日）**「公害輸出」「経済帝国主義の侵略」と、訪問先の各国で学生らの罵声をあびた。写真は15日のジャカルタの日本大使館前。日本車に火がつけられた。

昭和49年1月

1（火）●日本の南極観測史上で初の死者。「ふじ」の海士長・新谷文男が、氷状調査中クレバスに転落。
2（水）●大平正芳（まさよし）外相、中国訪問に出発（5日、日中貿易協定に調印）。
3（木）●七月の参院選からコンピュータ導入と新聞に。
4（金）●東武百貨店、初売りに虎二頭を売り出し。
5（土）●田中首相、生活関連物資の在庫調査を指示。
6（日）●東京消防庁の出初め式で、燃料節約のため初めてポンプ車の一斉放水を中止。
7（月）●田中首相、東南アジア五ヵ国訪問に出発。
8（火）●朴（パク）韓国大統領、改憲運動とその報道を禁止。
9（水）●通産省、合成洗剤の緊急増産を業界に要請。
10（木）●運輸省、倉庫業八一六社に在庫報告を要請。
11（金）●日銀、前月の卸売物価指数は四七年同月比の二九㌫高で、終戦直後並みの高騰と発表。
12（土）●福田蔵相、物価は「狂乱状態」と記者会見で発言、「狂乱物価」が流行語に。
13（日）●都内で隣人との騒音トラブル急増、と新聞に。
14（月）●文化庁、国宝や重文のデパート展示を不許可。
15（火）●ジャカルタで田中首相訪問に抗議する学生デモが日本大使館に突入。八人死亡。
16（水）●電力使用制限令発令。国電の暖房停止、NHKは放映時間を夜一一時までに自粛。
●TBS「寺内貫太郎一家」放映開始。
17（木）●三鷹市の住民が倉庫隠匿（いんとく）の洗剤一万箱を発見。
18（金）●エジプトとイスラエル、停戦（二七年ぶり）。
19（土）●芸能山城組結成。旗揚げ「ケチャ・公演」。
20（日）●東京の無降水が史上最長の連続七一日を記録。
21（月）●環境庁、五〇年排ガス許容限度を告示。一酸化炭素は一〇分の一、窒素酸化物は約半分。
22（火）●暮らし向き悪化が五一・三㌫と経企庁調査。
23（水）●初優勝した関脇北の湖が大関昇進。
24（木）●日本庭球協会、アマチュアでも賞金獲得できる認定選手制度採用を決定。
25（金）●閣議、トイレットペーパー（四ロール二四〇円）、ちり紙（一三五円）の標準価格を決める。
26（土）●ベ平連、ベトナム停戦一周年を前に解散集会。
●「家庭科の男女共修をすすめる会」結成。
27（日）●東北に豪雪。青森市積雪四〇㌢で史上二番目。
28（月）●都立高の学校群制度廃止で都協議会合意。
29（火）●三宅一生、やまもと寛斎がジョイント・ショー。
30（水）●公取委、インスタントラーメンのメーカー一〇社をヤミ価格協定疑惑で立ち入り調査。
31（木）●日本赤軍、シンガポールのシェル石油を襲撃

ニュース・ファイル

1974

フォト＋日録で再現する365日

前年秋に起こった石油危機は、永遠に続くかと思われた高度成長"神話"を崩壊させ、一転、省エネルギー・低成長が経済の基調になった。華やかだったミスタープロ野球・長嶋が引退、「列島改造」を掲げた田中角栄が辞任したのが、なにより印象的だった。

◀**伊豆半島沖地震（5月9日）**午前8時半頃、南部を中心に発生。M6.9。各所で土砂崩れが生じ、道路の亀裂によって交通が遮断、死者・行方不明が38人に達した。写真は石廊崎灯台（手前）と崩壊した展望台。

読売新聞社

▲大阪ミナミで小判ザクザク(2月14日)日本橋筋の北陸銀行の新築工事中、文政小判96枚などが見つかった。骨董店の見積りでは3000万円ほど。発見者と折半になり、銀行が買い取って所蔵した。

▲アラブ・ゲリラ、クウェートの日本大使館占拠(2月6日)シンガポールを襲撃した日本赤軍の奪還をねらい、移送機を要求。8日、日航機で南イエメンに逃げた。写真右下がゲリラの一人。

▲名古屋で新幹線減速闘争(2月21日)動力車労組が騒音公害訴訟団を支援、3月2日まで名古屋駅付近を100キロ以下で走った。写真は感謝を表明する住民。

▶ソルジェニーツィン、ソ連から追放(2月13日)著作『収容所群島』などを通じて体制批判をしたため。写真は山荘を提供した西独の作家ベル(右)と。

◀大雪で旅館の90畳敷き大広間が崩壊(2月10日)群馬県谷川温泉でスキー客3人が圧死、7人が重軽傷。男手不足のため雪おろしをおこたっていた。

昭和49年2月

1(金)●通産省、学用品の最大二〇㌫値下げを勧告。
2(土)●「人民日報」、青嵐会を軍国主義の芽と批判。
3(日)●上野アメ横の海苔大安売りに一万人行列。
4(月)●米新聞王ハーストの娘パトリシア誘拐(左翼ゲリラSLAに参加し4月銀行強盗を決行)。
5(火)●東京の大手キャバレー「ミス東京」と、ダンスホール「フロリダ」が不況のため閉店。
6(水)●ゼネラル石油の「石油危機は千載一遇のチャンス」との内部文書を共産党が暴露。
●アラブゲリラ、クウェート日本大使館占拠(8日シンガポール襲撃の赤軍と南イエメンへ)。
7(木)●東京の商社がキャベツを中国から緊急輸入。
8(金)●米の宇宙実験室「スカイラブ」が帰還。
9(土)●世界スピードスケート選手権大会五〇〇㍍で鈴木正樹が優勝。
10(日)●IOC、アジア大会への中国参加支持を決議。
11(月)●リビア、テキサコなど石油三社を国有化宣言。
12(火)●名画上映組織エキプ・ド・シネマ発足。初回上映はインド映画「大樹のうた」。
13(水)●ソ連、作家ソルジェニーツィンを国外追放。
14(木)●東京・渋谷署、フォーリーブスに会いたいと九州、大阪から家出した少女一四人を保護。
15(金)●東証上場一〇六八社の保有地のうち、三分の二が過去二年間の取得土地、と建設省発表。
16(土)●東大宇宙研、初の誘導式ロケット打ち上げ。
17(日)●真岡市の警察署でラジオ爆弾爆発(26日農業高校生三人逮捕、一人を全国指名手配)。
18(月)●法務省、差別につながるおそれのある場合は戸籍簿などの閲覧不許可の方針を決定。
19(火)●公取委、石油連盟と一二社を独禁法で告発。
20(水)●伊藤忠が生活物資隠匿を指示と共産党が暴露(22日通産省が立ち入り調査、異例の警告)。
21(木)●米本社一〇〇㌫出資の日本フォード社認可。
●動労、名古屋住民の新幹線騒音・振動抗議運動を支持し一〇〇㌔以下への減速闘争を開始。
22(金)●ゼネラル石油、灯油便乗値上げ分返金と発表。
23(土)●アイヌ訪中団、北京で少数民族と文化交流。
24(日)●川崎市住民、多摩川にサケの稚魚一万匹放流。
25(月)●衆院予算委、物価集中審議を開始(~27日商社など各業界代表二三人を参考人招致)。
26(火)●私大医学部の寄付金は一人八五四万円と判明。
27(水)●大阪地裁、大阪空港騒音訴訟で夜間使用禁止と、損害賠償命じる原告住民勝訴の判決。
28(木)●地震予知連、東海地方を観測強化地域に指定。

▲ユリ・ゲラーの超能力(3月7日)日本テレビ系の「木曜スペシャル」で、念力でスプーンの柄を曲げたり、時計を動かすところを紹介し、一躍ブームに。一方では反超能力キャンペーンもかまびすしかった。

▲那覇で地雷爆発(3月2日)水道工事中に発生、作業員3人が死亡、近くの幼稚園でも死者一人、重軽傷者32人を出した。県は5月に不発弾等対策協議会を設置した。

▼英首相にウィルソン返り咲き(3月4日)3年8ヵ月ぶり、労働党が総選挙で第1党に躍進したため、党首のウィルソンが単独で組閣。炭鉱ストによる深刻なエネルギー危機にある英経済建て直しの難題に、少数与党として取り組むことになった。

▲初の誘導式ロケット打ち上げ(2月16日)鹿児島県内之浦町で東大宇宙研が実施。日本初の本格的な誘導式3段ロケット「ミュー3C」1号機の打ち上げに成功。人工衛星「たんせい2号」を、地球の周回軌道に乗せた。

▲ストリーキング、六本木に登場(3月15日)この年、アメリカからヨーロッパに飛び火、ついに東京にも出現。17日には銀座で全裸女子高生が逮捕された。どちらも米国人だった。

◀インフレ阻止全国決起集会(3月31日)社会党など国民共闘主催。「田中内閣打倒・大企業糾弾」を掲げ、全国270ヵ所130万人が参加。写真は主婦や子どもの姿が目立つ東京のデモ。

昭和49年3月

1(金)●大規模小売店舗法施行。面積や営業時間規制。
●山形・秋田県境の鳥海山が一四〇年ぶり噴火。
●プロ野球でセーブポイントなどを新設。
2(土)●那覇市の工事現場で不発弾爆発。三六人死傷。
3(日)●トルコ航空エアバス機がパリ郊外で墜落。日本人四九人含む三四五人全員が死亡。
4(月)●高野連、公式試合での金属バット使用を許可。
5(火)●養豚経営が悪化し妊娠豚まで屠畜と判明。
6(水)●大田区、羽田でのエアバス就航中止を要請。
7(木)●日本テレビ、「ユリ・ゲラーの超能力」放映。反響の電話殺到し電話局の交換機パンク。
8(金)●都立高入学辞退者が、学校群導入以来最高の七一六五人、と都教育庁が発表。
9(土)●一三婦人団体、韓国への妓生旅行反対集会。
10(日)●ルバング島に二八年潜伏の元陸軍少尉・小野田寛郎、元上官の命令で下山(12日帰国)。
11(月)●男性の七五㌫が一日約二二本喫煙と専売公社。
12(火)●初の『通信白書』。一般加入電話数二〇九八万台、カラーテレビの普及率五五・一㌫。
13(水)●東京・大阪・名古屋圏で全人口の四七㌫と判明。
14(木)●田中首相、国旗・国歌の法制化を示唆。
15(金)●世界第二位の山陽新幹線関門トンネル貫通。
16(土)●政府、石油製品の平均六二㌫値上げを承認。
17(日)●スイスの銀行が世界三七都市の物価・賃金比較発表。東京の生活水準は平均以下。
●銀座で米人女子高生ストリーカーを逮捕。
18(月)●生活関連物資の値上げに事前届け出制実施。
19(火)●三菱商事、商社批判に対応するため、社会還元事業として日本人工臓器開発研究所を設立。
20(水)●政労協、天下り反対で二四時間の統一スト。
21(木)●映画「ゴジラ対メカゴジラ」封切。
22(金)●松下電器、米大手モトローラ社のテレビ部門を買収、譲渡契約に調印。
23(土)●運輸相、航空三社に大阪発着大幅減便を指示。
24(日)●マラソンの君原健二が今月で引退、と新聞に。
25(月)●総理府、一世帯一住宅は一応達成と発表。
●園芸農協連、みかんの自主減産を決議。
26(火)●粗鋼生産で各社は二〇㌫以上の伸びと新日鐵。
27(水)●全日本女流アマ囲碁選手権で小学生優勝。
28(木)●「生きがいは仕事」が六割と余暇開発センター。
29(金)●厚生省、入院費などの差額徴収の規制を通達。
30(土)●名古屋の新幹線公害訴訟原告団五七五人、騒音・振動差し止めと損害賠償を求め提訴。
31(日)●名古屋市の市電、全廃。さよなら式を挙行。

▶**ボストン・マラソンで日本女性が優勝(4月15日)** 3年前から始まった女子の部に、ロサンゼルス在住の主婦兼秘書、ゴーマン美智子(38)が出場、2時間47分11秒で独走した。

◀**カネやんのお祭り野球(4月27日)** オーバーアクションで人気のロッテ監督・金田正一が太平洋戦で走塁妨害の宮寺捕手に暴行(写真)、退場となった。この年、勢いに乗ったロッテは中日を破り、日本一を制した。

▶**京都府知事に蜷川虎三7選(4月7日)** 自民、民社、それに社会党京都府本部右派の支持する大橋和孝を僅差で破った。写真中央が革新系の蜷川(77)。7選は全国初。社会党の分裂で革新共闘の行方に影を落とした。

読売新聞社

WWP

読売新聞社

▶**迎賓館完成(4月23日)** 国賓を迎えるゲストハウスとして、旧赤坂離宮を104億円かけ改装した。写真上が本館、下が新設の和風別館。

毎日新聞社

▼**強盗になったパトリシア(4月15日)** 2月に過激派に誘拐された米新聞王ハーストの孫娘が、銀行の隠しカメラに、強盗に入った過激派の一味として撮影された。翌年9月に逮捕され有罪となった。

共同通信社

▶**ポルトガルの独裁政治に幕(4月25日)** スピノラ将軍を推す反乱軍が無血クーデターを起こし、首都リスボンを制圧。民主化を掲げる救国軍事政権を樹立した。写真はリスボン市内に姿を見せた反乱軍の戦車。

WWP

昭和49年4月

1(月) ●NHK「ニュースセンター9時」の放映開始。
●東京・新宿に朝日カルチャーセンター開講。

2(火) ●自給率は五三%で主要国最低と『農業白書』。

3(水) ●東京都、心身障害児の希望者全員入学を決定。

4(木) ●ゴルフ会員権業者が脱税で初めて摘発される。

5(金) ●韓国の民青学連事件で、留学生・早川嘉春と太刀川正樹がスパイ容疑で逮捕される。

6(土) ●春の選抜で部員一一人の徳島・池田高準優勝。

7(日) ●蜷川虎三、京都府知事選で全国初の七選。

8(月) ●米大リーグでハンク・アーロンがベーブ・ルースの記録破る七一五本塁打。

9(火) ●最高裁、富士山の八合目以上は浅間神社の所有地と国の上告を棄却。

10(水) ●警察庁、公害課新設。公害摘発に取り組む。

11(木) ●八一単産六〇〇万人が空前の四・一一決戦ゼネストに突入(~13日)。国鉄は初の全面運休。

12(金) ●和歌山県沖で漁船など衝突二件。二九人不明。

13(土) ●私大連盟、教育費は国立大の三分の一と発表。

14(日) ●医師国家試験実施。問題が関西で漏洩と判明。

15(月) ●ボストン・マラソンでゴーマン美智子が優勝。
●野田慶子・大城光代、初の女性高裁判事に。

16(火) ●国鉄保線労働者、「黄害列車」防止に屎尿貯留槽設置を求め東京地裁に提訴。

17(水) ●公取委、牛乳大手五社に価格協定破棄を勧告。

18(木) ●日本分析化学研究所が二年前から米原潜の放射能測定値を捏造、証拠書類を焼却と判明。

19(金) ●広島産生カキの一三%は死貝と都衛生局調査。

20(土) ●東京で「モナ・リザ展」開幕(~6月10日)。
●日中航空協定調印(台湾は日台路線を停止)。

21(日) ●二年前三人で旗揚げした山形交響楽団が、団員二二人の社団法人となり結団式。

22(月) ●日ソ、シベリア共同開発の資金議定書に調印。

23(火) ●旧赤坂離宮を改装した迎賓館が落成。

24(水) ●東京の奥多摩にはニホンカモシカやツキノワグマも生息、と都公害局の哺乳動物分布調査。

25(木) ●プラント西独首相秘書G・ギヨームを東独のスパイ容疑で逮捕(5月6日首相辞任)。
●ポルトガルで無血クーデター、独裁政権崩壊。

26(金) ●大気・水質汚染は改善されつつあるが、水銀・PCB汚染が深刻と『環境白書』。

27(土) ●日ソ漁業交渉妥結。蟹工船は廃止。

28(日) ●留年大学生増加、京大は三人に一人と新聞に。

29(月) ●IOC、アマチュアへの金銭補助を認める。

30(火) ●四日市市の化学プラントから塩素ガス流出。

証言・あの日この日
堀多恵子(61)

4月5日(金) ＜今日は朝から霧がまいていました。郵便局に行こうと思ったのに、どうしたことか車のエンジンがかかりません。安中にあるワーゲンの会社ヤナセに電話しましたら、これからすぐ行きましょうと言ってくれました。1時間もすると、ブルーのナッパ服を着た人が二人でやって来ました。早速、主任だという名刺を渡してくれた人が車に乗ってギヤーをがちゃがちゃさせエンジンをかけると一ぱつで始動し始めました。私は呆然としてしまいました。ギヤーがちゃんと入っていなかったようです＞(堀多恵子『返事の来ない手紙』)

堀辰雄の未亡人・多恵子は軽井沢に一人暮らす。その地での生活に車は欠かせない。このワーゲンの新車は通算4台目だ。軽井沢は2年前、バイパス、新しい国道18号線が完成し、ますます大衆化が進む。　(坪内祐三)

▼**堀江謙一(35)、こんどは世界1周に成功(5月4日)** 全長8.8メートルの小さなヨットで、257日目に地球をひと回りして大阪府泉北郡の港に到着した。写真は紀伊水道で出迎えた妻の信子さんと握手。

朝日新聞社

日本女性マナスル登山隊提供

▲**日本女性隊、世界初の8000メートル峰踏破(5月4日)** 黒石恒隊長ら12人がヒマラヤのマナスル(8156メートル)に2度目の挑戦。松本、森、内田の3隊員が登頂に成功した。

朝日新聞社

▲**最高裁判所落成(5月23日)** 東京の三宅坂に地上5階、地下2階の新庁舎ができた。総工費126億円。新装大法廷には高さ52メートルの吹き抜けがある。写真は29日大法廷で行われた判決第1号。

読売新聞社

▲**経団連会長、土光敏夫に(5月24日)** 植村甲午郎(右)からバトンタッチ。東芝会長。石油危機後の狂乱物価に対する政府の経済統制を批判、大企業の声を代弁して自由主義経済の堅持を訴えた。

▼**日本熱学工業倒産(5月20日)** 空調機器業界の大手だったが、宣伝過多など放漫経営がたたった。負債300億円の大型倒産。1日に一部上場に指定されたばかり。写真は債権者に謝る牛田正郎社長。

朝日新聞社

昭和49年5月

1(水) ●建設省、公示地価上昇率は前年比三二・四%、宅地は三年で二倍の高騰と発表。

2(木) ●大企業賃上げは平均三一・四%と日経連調査。

3(金) ●在米原爆被爆者に被爆者手帳未交付と判明。

4(土) ●堀江謙一、ヨットでの単独無寄港世界一周で二五七日一三時間一〇分の世界新記録。
●日本女性登山隊、ヒマラヤのマナスル登頂。八〇〇〇㍍級の女性制覇は世界初。

5(日) ●米「タイム」誌、世界の食糧備蓄は戦後最低で二七日分と警告。

6(月) ●連休最終日で新幹線乗客七九万人の新記録。

7(火) ●最高賞金二〇〇〇万円のジャンボ宝籤発売。
●都の公衆浴場四二%値上げ、大人七五円に。

8(水) ●政府、海洋法会議前に領海一二カイリ容認を決定。

9(木) ●伊豆半島南部に地震。死亡・不明三八人。

10(金) ●足尾鉱毒被害農民と古河鉱業、一五億五〇〇〇万円で補償成立。古河初めて責任を認める。

11(土) ●一万円札の流通量が四八%で一位、と日銀。

12(日) ●小林研一郎、ブダペスト国際指揮者コンクールで一位。

13(月) ●法政大付近で革マル派と中核派一〇〇人が内ゲバ。中核派の一人が死亡、二五人重軽傷。

14(火) ●東京都の公害監視船団発足。排水などを監視。

15(水) ●東京・江東区にセブン-イレブン一号店開店。

16(木) ●前年の有給休暇消化は平均九・三日と経企庁。

17(金) ●中国からのウナギの稚魚、初の航空便羽田着。

18(土) ●日本消費者連盟(日消連)結成。
●インド、核実験実施と発表。六番目の保有国。

19(日) ●仏大統領選でジスカールデスタンが当選。

20(月) ●日本熱学工業、負債総額三〇〇億円で倒産。

21(火) ●電力料金値上げ認可。産業用は七四%の上昇。

22(水) ●原発を一〇年後に七〇〇〇万キロワットにと通産省。

23(木) ●最高裁判所新庁舎が東京・三宅坂に落成。

24(金) ●土光敏夫、経団連会長に就任。

25(土) ●自民党、衆院で靖国法案を可決(参院で廃案)。

26(日) ●大腿四頭筋短縮症から子どもを守る全国連絡協議会、甲府市で結成。

27(月) ●日立製作所、採用時の戸籍謄本提出を廃止。

28(火) ●蚊の駆除のため神田川に放流したコイ三〇〇〇尾が、水質汚濁による酸欠で大量死。

29(水) ●経団連、公取委強化に反対する見解を発表。

30(木) ●京都地裁、同志社大教授・大島正のサラリーマン課税不公平訴訟で源泉徴収は合憲と判決。

31(金) ●浜松医科大など三医科大の設置認可。

6月

読売新聞社

▲**西之島合体(6月10日)**前年7月、小笠原諸島の西之島近くに火山爆発によって誕生した西之島新島が、本島とつながった。その後の断続的な噴火と海流によって両島間に溶岩などが堆積したため。

▼**ボルグ、18歳でメジャータイトル2連勝(6月16日)**パリで行われた全仏オープン・テニス選手権大会シングルスで優勝、この大会史上最年少の覇者となった。ボルグはスウェーデン出身、イタリア・オープンに続く勝利。

WWP

毎日新聞社

▶**国土庁開設(6月26日)**25日に公布された国土利用計画法の運営をはかる総理府の外局。道路計画などの予算計上、公共事業の予算調整などに大きな権限を持った。写真中央が初代長官の西村英一。

▼**トイレットペーパー公開試買検査会(6月6日)**東京・霞が関の公正取引委員会で、業界代表立ち会いのもと、消費者モニター120人が表示の公開検査。長さでは、423点中43点が表示より短かった。

読売新聞社

▲**「大腿四頭筋短縮症」集団検診(6月15日)**5月に全国連絡協議会が発足、治療方法の早期確立を訴えていたが、50人余が東大で高橋晄正講師らの初の検診を受けた。

▶**レーサー二人焼死(6月2日)**「富士300キロスピードレース」を開催中の静岡県の富士スピードウェイで2台が激突。計4台が炎上し観客を含む6人も重軽傷を負った。

日刊スポーツ

朝日新聞社

昭和49年6月

1(土)●少女漫画誌「花とゆめ」創刊(同類誌相次ぐ)。
2(日)●富士スピードウェイで接触事故。二選手焼死。
3(月)●中国、北京での射撃大会に自衛官を招待。
4(火)●横井庄一に石油危機以来「耐乏生活評論家」として講演依頼が殺到、と新聞に。
5(水)●政府、南アとのスポーツ・文化交流を停止。
6(木)●盛岡地裁、公労法の争議禁止は違憲と判決。
7(金)●中島正一、マラッカ海峡の遠泳横断に成功。
●国立民族学博物館の大阪設置決まる(館長・梅棹忠夫、52年開館)。
8(土)●環境庁、夏スキーの雪固め用に撒く塩で高山植物が枯死するとして、塩の使用禁止を要請。
9(日)●アフリカ統一機構、日本が人種差別国ローデシアと密貿易を行っていると批判。
10(月)●通産省、初のレジャー産業調査を発表。ボウリング人気は下降、テニスは六割増。
11(火)●日教組委員長・槙枝元文、スト煽動で逮捕。
12(水)●徳山湾の水銀ヘドロ処理費用一一〇億円は、全額汚染企業の負担、と新聞に。
13(木)●本田技研、韓国に進出し合弁会社設立と表明。
14(金)●入超一三億ドル余で過去最高と五月貿易統計。
15(土)●P・ニューマンら主演「スティング」封切。
16(日)●スウェーデンのビヨン・ボルグ、最年少一八歳で全仏オープン・テニスに優勝。
17(月)●政府がアラブ産油国の中央銀行から一〇億ドル借り入れと判明。
18(火)●八尾市の新興宗教「一元ノ宮」教祖、大地震勃発の予言がはずれたと割腹自殺未遂。
19(水)●横浜地裁、在日韓国人への就職差別無効判決。
20(木)●R・バック『かもめのジョナサン』刊行。
21(金)●九州初の玄海原発に濃縮ウラン燃料搬入。
22(土)●厚生省、母乳の二八%がPCB汚染と発表。
23(日)●青森競輪で判定ミスから観客一二〇〇人が騒ぎ、解決金として一人二万円が支払われる。
24(月)●大橋巨泉・前田武彦ら四五名、「参院選で革新を支持」と毎日新聞に意見広告。
25(火)●国土利用計画法公布。大規模売買は届け出に。
26(水)●夏のボーナスが前年比五二%増と日経連調査。
27(木)●バチカン市国、福島市の中学生の版画「受胎告知」を同国切手に採用と通知。
28(金)●不適海水浴場は全国でわずか一カ所と環境庁。
29(土)●自衛隊然別演習場で迫撃砲暴発。六人即死。
30(日)●上野動物園の「お猿電車」、虐待理由に廃止。
●山形県、余剰米二五〇〇トンを韓国へ初の輸出。

20世紀博物館

日本はきもの博物館 広島・福山市

鼻緒をはさむ足の指の間には〝人類の底力〟がひそむ

桑原茂夫

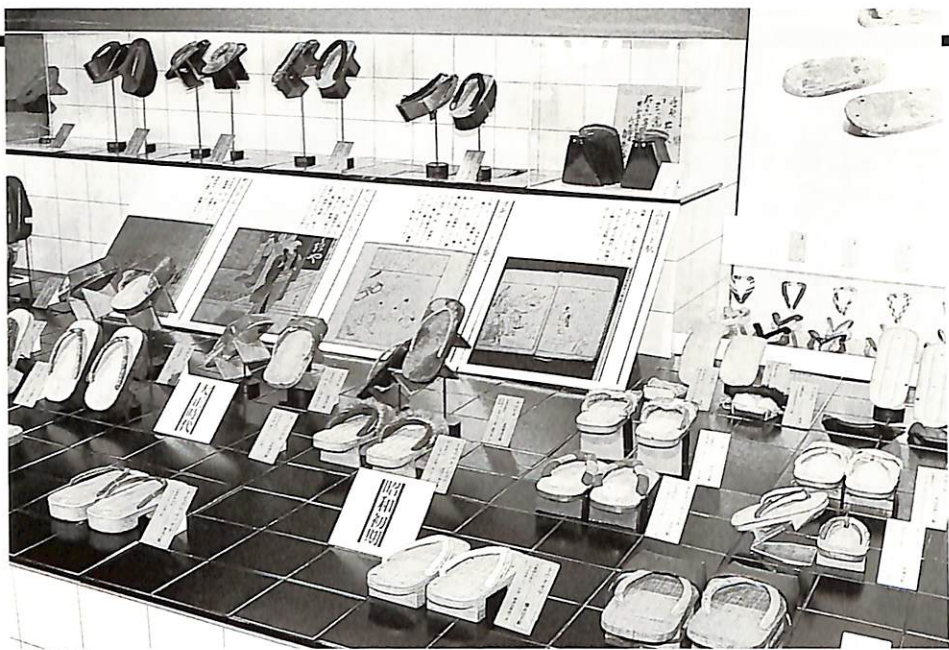
◀明治から昭和にかけて、よく履かれていた下駄・草履。おいらん道中で履く高下駄もあって情緒豊かなコーナーである。

井上一郎撮影

〝庶民宰相〟と言われた田中角栄は、しばしば下駄履きでメディアに登場し、いかにも庶民的であることを印象づけようとしたようだが、この頃すでに下駄(そして草履も)は日常生活から消え去りつつあった。そして今ではすっかり前時代の履物のようにみなされつつある。戦後になって急激に、靴が履物の世界を席巻してしまったのである。

「しかし」と、下駄のよさをきっぱりと主張する人がいる。収蔵点数一万三〇〇〇足という、世界に誇る「日本はきもの博物館」の主任学芸員、潮田鐵雄さんだ。履物博士の異名をとる(著書も持つ民俗学者なのである)潮田さんは、裸足になって足を見せた。

「こういう足を下駄足と言うんですよ。幅が広く指ががっちりと土をつかもうとしている。だから靴を履くのには向いていません」

そう簡単に履物を変えてしまっていいものだろうか、という疑問を投げかけて

▼企画展示で、労働と履物がテーマの展示が行われていた。歯の高い下駄は泥の中での作業用だった。

もいるのである。

潮田さんによると、日本人が常用していた下駄・草履の、履物としての最大の特徴は、足の母指と第二指(足では人差し指とは言わない!)で鼻緒をはさんで履くところにある。

この博物館に、時代を追ってずらりと並ぶ履物の多くがこのタイプのものだが、履物をこのように使うのは日本人だけではない。照葉樹林帯が広がる地域の民族に多いそうだ。そしてそれらの民族には履物だけでなく、味噌・醤油を使う、お茶を飲むといった、共通した風俗・習慣があるという。〝たかが履物〟どころではない。履物からは実にいろいろなことが見えてくるのだ。

田下駄や足桶、のり下駄などと称する大きな下駄の類には、弥生時代にまでさかのぼれるものもある。これらは田んぼや浅瀬などで仕事をするための履物で、歩くためのものではなかった。

かと思うと、動きまわるのに都合のよい、機能性を追求したわらじの類もある。これがやがて草履となって日常生活に根をおろしていく様子も見られる。お祭りや芸能に用いられた特殊な履物もあり、

▲敷地面積3300平方メートルに、履物関係だけで4棟。充実した博物館だ。

▼有名人の履物コーナー。ジャイアント馬場の16文靴を中央に、左は伊藤みどりのスケート靴、右は小錦の草履が並ぶ。ちなみに1文は、長さで約2.4センチである。

こちらは豊かな情緒を感じさせる。

履物とは、まことに幅が広く、深みのある道具(?)なのである。瀬戸内海をまたぐ巨大建築物・瀬戸大橋がこの博物館の近くにあるが、潮田さんはこんなことも教えてくれた。

「あの瀬戸大橋を作ったのは、地下足袋を履いたトビ職人たちです」と。地下足袋は下駄・草履と同じように、母指と第二指の間が割れている。そこを基点として巧みにバランスをとることができるのだという。あまり履かなくなった下駄・草履だが、母指と第二指の間には、直立歩行してきた人類の、底力がひそんでいるのかもしれないのである。

●日本はきもの博物館
広島県福山市松永町三六四―一
☎〇八四九―三四―六六四四
JR山陽本線松永駅下車、徒歩五分
開館時間=九時〜一七時
休館日=一二月二八日〜一月一日のみ
入館料=一般一〇〇〇円(併設の「日本郷土玩具博物館」と共通)

ベストセラー
『かもめのジョナサン』が見た物質文明への疑問と不安

この年ベストセラーに名をつらねた『かもめのジョナサン』は、これまでにない装いを持つ本だった。作家・五木寛之の翻訳で、かもめが主役の物語だが、随所にかもめの写真を挿入し、物語に奇妙なリアリティを与えた。しかも、アメリカのヒッピーたちに人気があり読み継がれたというこの本には、寓話タッチの哲学書といった趣があった。食べるためだけに飛ぶのではなく、飛ぶこと自体に存在意義をみいだそうとする、かもめのジョナサンの真摯な態度は、物質文明に根底から疑問を投げかけるもので、同じような疑問を抱く人々の心をしっかりととらえたのである。

物質文明の時代が生み出す、えたいの知れない不安を再認識させるような本『ノストラダムスの大予言』も、この年のベストセラーだった。

一六世紀の予言者ノストラダムスの著書『諸世紀』におさめられたたくさんの四行詩が、未来（現在）への予言だったとして、それらを具体的に解読してみせたもの。一九六〇年代の宇宙飛行やケネディ暗殺をも予言したとされている。

これとは逆に、時代をはるか古代にまでさかのぼって推理を進めた、推理作家・高木彬光の『邪馬台国の秘密』も、よく読まれた。すでに『成吉思汗の秘密』で、ジンギスカンは源義経であるという大胆な歴史推理を展開した高木彬光が、探偵役・神津恭介を登場させて、この頃ブームになっていた"邪馬台国"に挑んだもの。作家の自由な発想で「魏志倭人伝」を読み解き、話題を呼んだ。しかし、このテーマは微妙な問題をはらむものだけに、作者も慎重を期し、昭和五八年には"改稿初版"を著している。

●昭和49年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	『かもめのジョナサン』（リチャード・バック／新潮社）
2位	『ノストラダムスの大予言』（五島勉／祥伝社）
3位	『たべながらやせる健康食』（中村鉱一／KKベストセラーズ）
4位	『婦人抄』（池田大作／主婦の友社）
5位	『虚構の家』（曽野綾子／読売新聞社）
6位	『あのねのね』（あのねのね／KKベストセラーズ）
7位	『ぐうたら好奇学』（遠藤周作／講談社）
8位	『ローラ、叫んでごらん』（R・ダンブロジオ／サイマル出版会）
9位	『邪馬台国の秘密』（高木彬光／光文社）
10位	『アルキメデスは手を汚さない』（小峰元／講談社）

全国出版協会出版科学研究所

▲『かもめのジョナサン』（600円）

▲『ノストラダムスの大予言』（530円）

▲『邪馬台国の秘密』（400円）

スターと名場面
『竜馬暗殺』『青春の蹉跌』で原田芳雄、ショーケンが挑発！

この頃は、スクリーンから観客を挑発するかのような、強い個性を持った役者の活躍する映画が少なくなかった。その典型的な作品が、この年公開された黒木和雄監督の「竜馬暗殺」だった。竜馬役の原田芳雄をはじめ、石橋蓮司、松田優作、桃井かおりらが、激動期に先頭を切って走った若者の、大きく揺れる心をリアルに描き出してみせた。

神代辰巳監督の「青春の蹉跌」では、ショーケン＝萩原健一が、いき詰まって自分の出口を必死にさがす学生をストレートに演じ、グループサウンズの人気者から、強い個性を持つ役者としてその存在が再認識された。

「サンダカン八番娼館　望郷」（熊井啓監督）は、外国に売られていった"からゆきさん"の足跡を追った山崎朋子の原作による作品だが、栗原小巻、高橋洋子、田中絹代らがそれぞれ熱演。中でもこれが最後の主演映画となった田中絹代の演技には鬼気迫るものがあった。

この年、ほかには次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。「砂の器」（加藤剛）／「赤ちょうちん」（秋吉久美子）／「スティング」（ポール・ニューマン、ロバート・レッドフォード）／「エクソシスト」（リンダ・ブレア）。

▲「竜馬暗殺」で、竜馬の個性を浮かび上がらせた原田芳雄(中)と、石橋蓮司(左)。

▶「青春の蹉跌」で追いこまれる学生を好演した萩原健一(右)と、桃井かおり(左)。

▲「サンダカン八番娼館　望郷」で田中絹代(右)は、ベルリン映画祭女優演技賞を受賞した。左は相手役の栗原小巻。

東宝提供（三点とも）

モノ語り'74
「あさげ」「ポラロイドSX-70」「くるくるドライヤー」時代はいよいよ"インスタント!"

▶**即席味噌汁のきわめつき**　各種インスタント食品が出まわる中、昭和40年代初めには即席味噌汁もブームになったが、過当競争から粗悪品も多くなり、やがて衰退していった。そこで永谷園本舗（現・永谷園）は徹底的に品質にこだわった「あさげ」を発売、即席味噌汁のイメージを一新した。1食10円が相場の時代に1食40円、4袋入りで160円だったが、「これでインスタントかい？」というCMどおりの評判を呼んで、ヒットした。

▲**ずしりと重い手触りがリアル**　アニメのヒーロー"マジンガーZ"は、"超合金"という強力な物質でできている巨大ロボットだった。その大きさを感じさせるプラスチック製のモデル"ジャンボマシンダー"をヒットさせたポピー（現・バンダイ）が、この年"超合金"を強調したモデル「超合金・マジンガーZ」を発売した。小さいが重量感のあるダイカスト製で、その精巧さとあいまって、子どもたちの人気を呼び、ヒットした。1100円。

◀**冷蔵庫に野菜の専用室がついた**　簡単に氷ができるアイスメーカーつきの大きな冷凍室と、肉や魚のにおいや汚れをほかにうつさない専用室を備えた多層式の冷蔵室、それに乾燥を防ぐ野菜専用室、それぞれにドアがついた「3ドア冷蔵庫」をシャープが発売した。食品を大型店などでまとめ買いする機会がふえ、その保存のために新しいニーズが生じていたのにこたえたもの。15万5000円。

◀**いったんはお蔵入りした大ヒット商品**　字の上に描けるサインペンとして発売されていた、淡色の"暗記ペン"に、蛍光を入れて作ったのが、トンボ鉛筆の「暗記ペン蛍光」。試作段階では、光って目によくないなど反対意見が多くお蔵入り。ところが、それを使った子どもたちの反応が抜群によく、発売に踏み切ったところ、たちまち、普通のヒット商品の10倍という驚異的な売れ行きを示し、ロングセラーに。価格もずっと1本80円。

▶**フィルムに画像が浮かび上がる**　アメリカで"アラジンの魔法の箱"と言われた「ポラロイドSX-70」が日本ポラロイドから発売され、その魔法ぶりが評判を呼んだ。それまでのポラロイドから一段と自動化が進み、シャッターを押した後、露光されたフィルムが自動的にカメラの外に飛び出してくる。後はただ待つだけ。数分後には、きれいなカラー写真ができあがるというもの。発売当時は1台7万9800円という価格だった。

◀**二枚刃かみそりの定番が登場**　フェザー安全剃刀工業はこの年、「カートリッジ式二枚刃かみそりSⅡ」を発売し、大ヒットさせた。最初の刃がヒゲを引っ張り出し、2枚目の刃が切り落とすという"二枚刃"機能が、剃りあとをきれいにするので、男性に大好評だった。本体800円。替刃5枚入り350円と、価格も手頃だった。

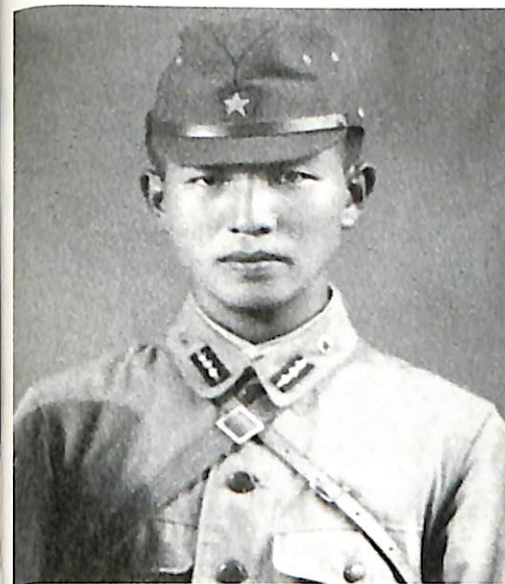
▶**朝の身支度に便利なドライヤー**　この頃はミニスカート、ショートヘアが流行しており、女性の毎朝の整髪も、カーラーを巻く方法から、ドライヤーでセットする方法へと変わってきていた。その傾向に応じて松下電工が開発したのが、ロールブラシつきの「くるくるドライヤー」だ。発売と同時に、販売の常識を破る売れ行きを示し、現在に続くロングセラーとなった。5500円。

人物クローズアップ

小野田寛郎（五二）

ルバング島からタイム・トリップ “任務解除”命令で三〇年ぶり生還

◀ルバング島赴任直前に撮影（22歳）。出征前小野田は母に「戦死公報が来ても死んだとは限らんよ。ひょっこり還って来るかもしれん」と語っている。 共同通信社

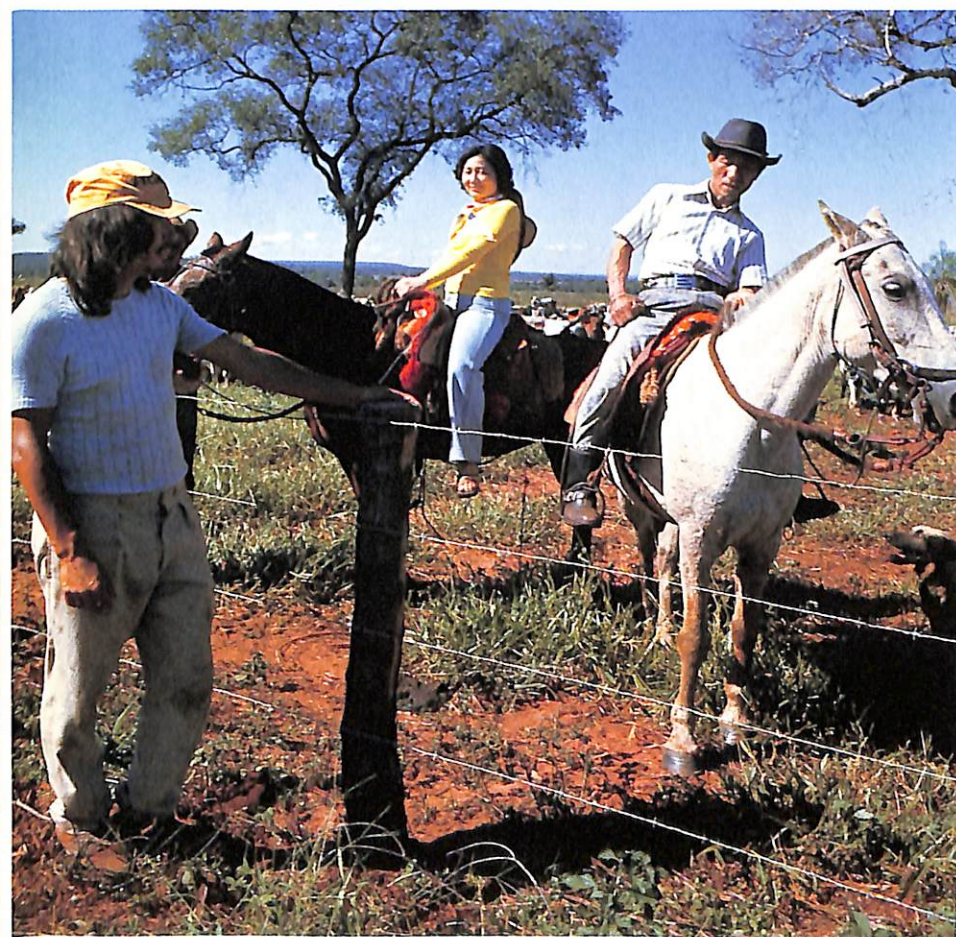
元陸軍少尉・小野田寛郎が不思議な日本人青年に遭遇したのは、昭和四九年二月二〇日の夜だった。場所は、フィリピンの首都マニラの南西約一五〇キロにあるルバング島の、小野田がワカヤマと名づけた地点だった。青年の名は鈴木紀夫。小野田がこの島にいると聞いて、会いに来たという。話をするうちに、小野田の心が少しずつほぐれていった。青年と別れ、再び会う約束をしたのが、約二〇日後の三月九日のことだった。この日が小野田にとって運命の日となった。鈴木に同行した小野田のかつての上官、谷口義美元少佐から任務解除の命令を受け、ようやく祖国日本へ生還することになったのである。彼は五一歳になっていた。

小野田寛郎は、大正一一年三月一九日、和歌山県海草郡亀川村（現・海南市）生まれ。昭和一九年一月、久留米の予備士官学校に入学し、同年八月卒業。さらに同年九月、陸軍中野学校二俣分校に入学。訓練の後、同年一二月にフィリピンに派遣され、そして一二月三一日、遊撃戦指導のためルバング島に入ったのである。

翌年の八月がすぎ、それまで毎日のように見えていた敵の姿が見えなくなった。しかし小野田は、それが戦争の終結を示すものとは思わなかった。一〇月になると降伏命令のビラがまかれたが、それも彼にはあくまで敵の謀略だと思えた。

戦後、小野田たち残留兵士の捜索は、都合四回にわたって行われている。昭和二九年、三四年、四七年、それに四八年である。しかし、小野田にはすべて敵の謀略とうつった。捜索隊が置いていった新聞などで、日本の様子は大体つかむことができたが、「平和な日本」などという記事は、いまだ“戦闘中”の小野田には到底信じられるものではなかった。

そんな小野田にとって、鈴木紀夫の言葉は、妙に心に残った。小野田は、多くの文書などから「終戦」という事実は知っていた。しかし、それにしては作戦解除の正式な命令がいっこうに来ないではないか。そうした小野田に、鈴木は「上官の命令があれば、降りてきてくれるんですね」と言って別れたのである。

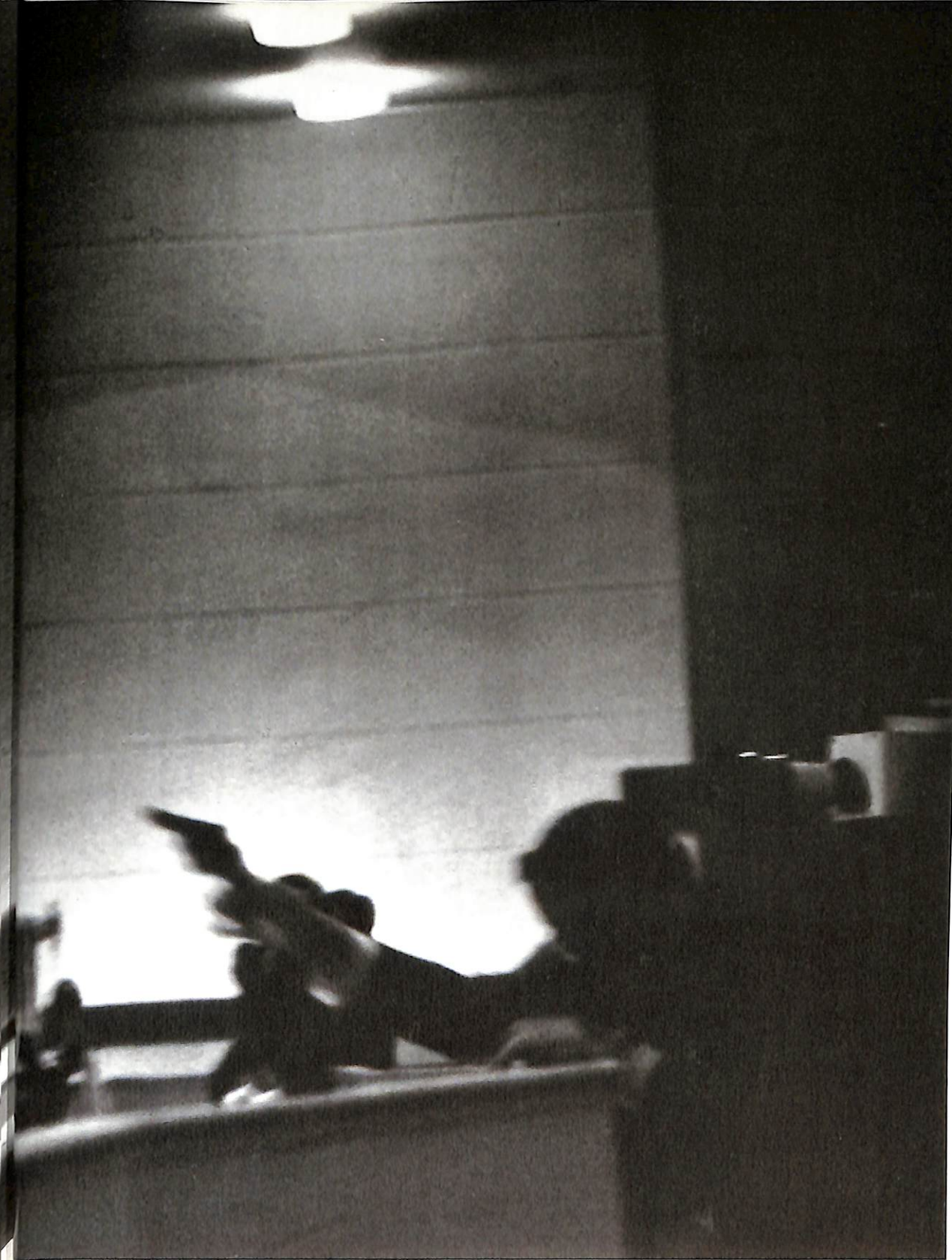
生還した小野田は、マスコミの狂騒にさらされた。そして、時代の隔絶による価値観の違いに、ただ呆然とするばかりだった。現在、小野田は、「何を言っても誤解されるし、言われても何のことだかさっぱりわからない。話をするのがいやになりました」と、当時を振り返る。仲間の島田庄一伍長、小塚金七一等兵を亡くした無念さに加え、自分一人だけ生還したこともみずからを苦しめた。中傷も少なくなかった。五〇年、小野田がブラジルに新天地を求め、牧場を経営するようになったのも、そうしたわずらわしさに距離を置くためだったが、それに対して、恩知らずという非難もあびた。

現在、小野田はブラジルと日本を行き来する多忙な日々を送る。生還から一五年目の平成元年、福島県塙町に私費を投じて設立した「小野田自然塾」で、子どもたちに自然に接する素晴らしさを教える。あの日から、もう二三年がすぎた。ルバング島で出会った鈴木紀夫が、ヒマラヤのダウラギリⅣ峰で遺体で発見されてから一〇年たつ。

▲小野田は夫人とともにブラジルへ入植。1850頭の牛を飼う牧場主として成功した。 根切圭介

▲任務を解除された3月9日はテントに泊まり、翌10日フィリピン空軍のレーダー基地に向かう。基地内では、道路の両側に兵士が整列し、捧げ銃で小野田を出迎えた。 共同通信社

決定的瞬間

式典に響き渡った三発の銃声！大阪の派出所から盗まれた銃で朴正熙大統領が狙撃された〝謎〟

◀左端は短銃が発射された直後、壇上に駆け上がるボディガード。右下シルエットの狙撃者・文世光は、この場で取り押さえられた。

「ちょうどその時、私は支局でラジオを聞いていました。銃声らしき音が聞こえると、オーッというどよめきとバタバタという雑音の後、一〇分ほど何も聞こえなくなったのですが、その後演説は再開され、大きな拍手が沸き起こりました。一体何があったかわかりませんでした」

こう語るのは、当時の「朝日新聞」ソウル支局長・為田英一郎氏である。

事件は一九七四年八月一五日、韓国の独立を記念する光復節の真っただ中に発生した。ソウル市の国立中央劇場で午前一〇時から開かれた記念式典には、外国大使など内外から三〇〇〇人もの賓客が参列、一〇時六分、朴正熙大統領（五六）の演説が始まった。

演説も後半にさしかかった一〇時……分頃のことである。

「祖国の統一は必ず平和的な方法でなされなければならない」と述べた矢先、〝ダーン〟という銃声が場内に響き渡った。

一発目の銃声の後も朴大統領は演説を続けたが、今度は、二発の銃弾がたてつづけに発射された。大統領は演台の裏側に隠れ、大統領の後ろに座っていた朴鍾圭大統領警護室長が、席を蹴って立ち上がり、陸英修大統領夫人（四九）の前方に移動しながら犯人に向けて応射、同時に会場の警護にあたっていた大勢のボディガードが突進し、オーケストラボックス付近の最前列まで前進していた犯人を取り押さえた。その混乱の中で、合唱隊の女子学生一人が、警備陣の流れ弾にあたり死亡した。

場内は騒然となった。壇上では大統領の後方に座っていた丁一権国会議長、閔復基大法院長、金正濂大統領秘書室長らがあやうく難を逃れ、参列者は座席に身を伏せた。大統領は左後方を振り返り、陸英修夫人が銃弾に倒れたのを確認すると、病院へ連れて行くことを指示、その後も演説を続けたのである。

この模様をキャッチしたのが、現場にいた韓国のカメラマンであった。演壇にピストルを向けた犯人は、反撃された後なのか、左手で身を支え視線を落としている。銃撃を受けて倒れた陸夫人は、警護陣に持ち上げられ会場から姿を消すところであった。

▼8月24日、ソウル地検に連行された文世光。

現行犯逮捕された犯人は在日韓国人の文世光（二二）。「内乱目的」と判断され、死刑の判決が下ったのは一〇月一九日、事件から二ヵ月後のことだった。文はただちに控訴手続きをとり裁判は続けられたが、韓国大法院は一二月一七日、情状酌量を退け死刑判決が確定、その三日後の一二月二〇日、文世光は絞首台の露と消えていった。

犯行に使われた短銃は、七月一八日大阪府警南署高津派出所から盗まれた二丁のうちの一丁で、実弾五発が入っていた。発射されたのは三発、一発目は不発、二発目が演壇に、そして三発目が陸夫人の頭部に命中したことが明らかになった。

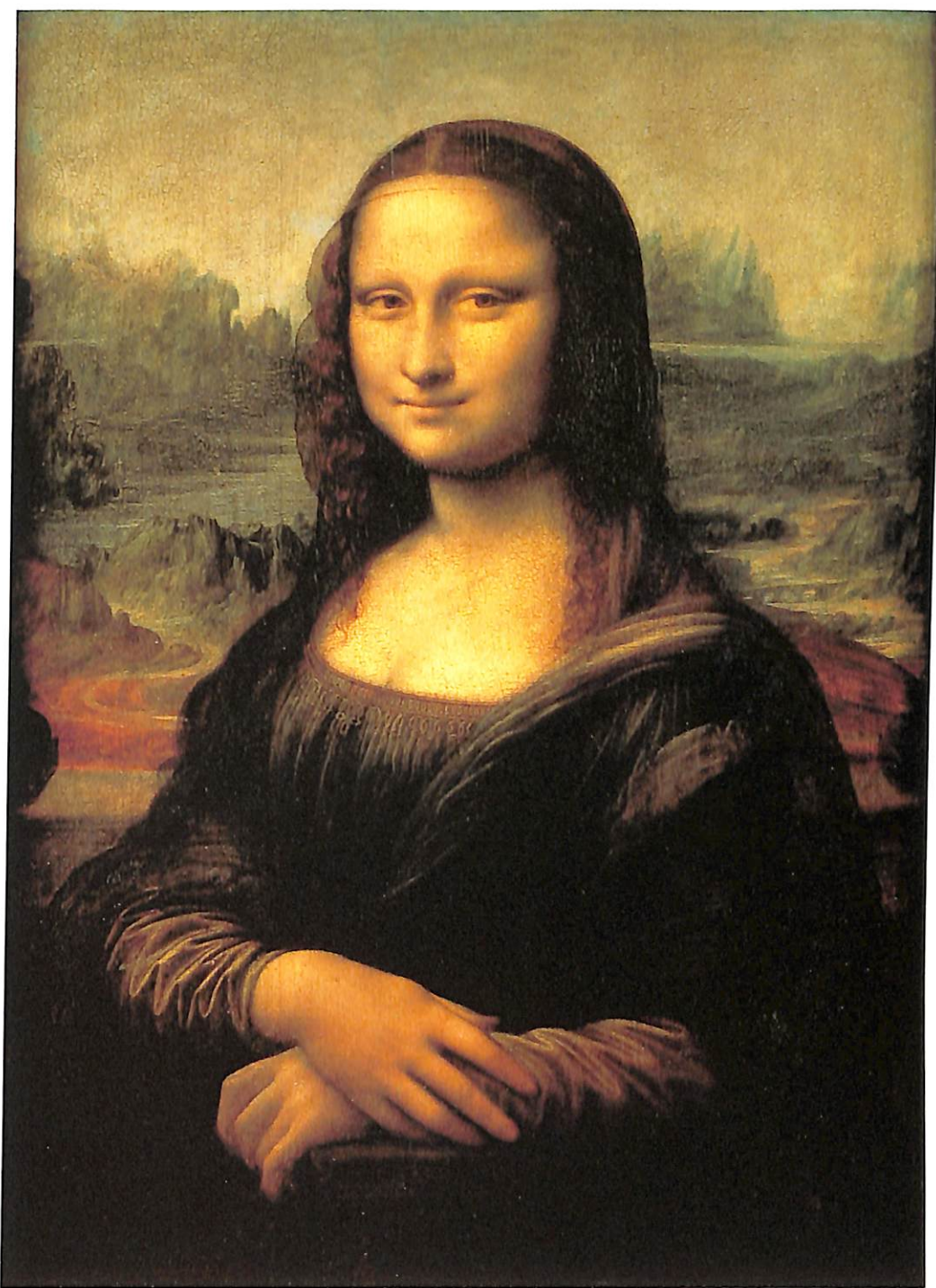
文世光は最後まで、生きて帰れることを信じ「天新（二歳の長男）が大きくなる前に帰れると思う」と、日本の家族に手紙を書き送っていた。

動機、入国や会場への入場の方法、資金や背後関係といった多くの謎を残したまま、事件発生から四ヵ月後、あまりにも早すぎる死刑が執行されたのである。

東亜日報／KRN

◀被弾した陸夫人は病院で死亡。犯人が在日韓国人であったことから、一気に反日感情が高まった。

美の出会い

ルーブルよりきれいに見えた!? “謎の微笑”を一目見ようと「モナ・リザ展」に一五〇万人

▶「モナ・リザ」。一五〇三～〇六年頃制作、油彩・板、七七×五三センチ。レオナルド・ダ・ヴィンチの代表作。純化した女性美を完璧に表現した作品として、今日でもルーブル美術館きっての人気作品である。　ルーブル美術館蔵

イタリア・ルネサンスの天才画家レオナルド・ダ・ヴィンチ（一四五二～一五一九）の最高傑作「モナ・リザ」が日本に到着し、四月二〇日から上野の東京国立博物館で一般公開された。一九六三年にアメリカに渡った以外は、門外不出とされてきた「モナ・リザ」が日本にやって来るというので、公開前から、これまで美術にあまり関心を示さなかった人々の間にも一大ブームを巻き起こした。

西洋古典絵画のシンボルとされる貴重な作品であるため、警備や防犯態勢は厳重をきわめた。博物館本館正面の特五室には、小銃でも破壊されない厚さ三三ミリの防弾ガラスの陳列ケースが作られた。その中にワイン・レッドのビロードの壁面がしつらえられ、その中央に「モナ・リザ」が飾られた。フランス側の厳しい注文により、ケース内はルーブル美術館と同じ条件の温度摂氏一九～二〇度、湿度五〇パーセントに設定され、監視カメラと警報器がつけられていた。

鑑賞用の通路は段差のついた三列になっているが、「謎の微笑」を少しでも近くで見ようと、観客は前列に押し寄せた。しかし「永遠の恋人」の前で立ちどまれる時間は、平均して三～四分。混んでいる時は、たったの三〇～四〇秒ということもあった。「前に進んでください」というマイクの声にもめげずに、がんばって見入る熱心なファンもいた。また、開幕当日、「車椅子の人はご遠慮ください」という主催者側の姿勢に抗議して、若い女性が「モナ・リザ」の陳列ケースにカラー・スプレイを噴射するというハプニングも起こった。

「モナ・リザ」に同行してきたフランスの関係者や、かつてルーブル美術館で見たことがあるという人々の間では、防弾ガラスでおおわれたり照明を明るくしたことなどで、「印象が随分と違う」という感想がもれ聞こえた。洋画家の宮本三郎氏は「四十数年前に見た時は、暗く沈んで見えたが、今日は照明のせいかボリュームがあり、つやもあって、みずみずしい」という感想をもらしている。また作家の井上靖氏も「ルーブルで見た時より色が鮮明で、きれいに見えた」と語っている。

初日の入場者は、予想していた三万人にはおよばなかったが、二万人にのぼり、五月に入ってからは、三万人を超える日もあった。六月一〇日の最終日までの総入場者は一五〇万五二三九人を数え、空前の大ヒットとなった。

そもそも「モナ・リザ」の日本への貸し出しが決まったのは、前年の九月のこと。田中角栄首相が訪仏した際、ポンピドー大統領との会談の席で決まったのである。以前、アメリカに渡った時は、フランス国内で激しい反対運動があったが、今回は田中訪仏前の七月、アンドレ・マルロー元文化相の「空想美術館」展に、京都・神護寺蔵の国宝「平重盛像」を貸し出しており、タイミングがよかった。

このほどの出品作は「モナ・リザ」のほか「フランソワ一世の肖像」（模写）、それに関連資料の写真などで、実質的には「モナ・リザ」一点だけの展覧会だった。それにもかかわらず、この展覧会企画が発表されると、地元・上野の商店街をはじめ、いたるところで便乗商戦が繰り広げられた。キャバレーにはウィンクするモナ・リザの看板絵が出現し、デパートでは「モナ・リザ　フェアー」「モナ・リザ切手展」などとモナ・リザが氾濫。京都では「マドモアゼル　モナ・リザ」を選ぶコンテストが行われるなど、ブームは過熱していった。

「モナ・リザ」のモデルはいろいろと取りざたされ、女装した男性説まである。しかし、フィレンツェの名門フランチェスコ・デル・ジョコンドの三人目の妻リザであるという説が有力で、この作品は「ラ・ジョコンダ」とも呼ばれている。レオナルドは生涯、「モナ・リザ」を手元においていたという。当時からこの作品の美しさには、定評があったのである。

▲「モナ・リザ」は、4月20日から6月10日までの約50日間一般公開された。初日の午前9時には、“2泊3日組”を含め1000人が列を作る人気だった。　朝日新聞社

ルーブル美術館蔵

◀「フランソワ一世の肖像」。一五二〇～二五年頃制作、油彩・板、八三・三×五八・七センチ。ジャン・クルーエ作の模写。レオナルドの最後のパトロンであったフランス国王フランソワ一世は、ルネサンス文化をこよなく愛した。

「現場」を歩く

丸の内

恐怖の連続企業爆破事件から二三年目、三菱村の警備体制

山本徹美

昭和四九年八月三〇日午後一二時四五分頃、東京・丸の内にある三菱重工ビル一階正面玄関前に仕掛けられた時限爆弾が炸裂。衝撃で玄関周辺は崩落。爆風によって窓ガラスは地上九階までことごとく吹き飛び、その破片はスチール製のロッカーをも突き破り、従業員たちの皮膚を切り裂いた。ある被害者の遺体は左上腕と左大腿がもぎとられるなど凄惨をきわめ、被害は約一〇〇メートル先のビルにまでおよぶ。

▲早ければ5年後に、三菱重工業、三菱自動車、三菱商事（一部）が品川に移転する予定。　奥村健太郎

爆発による死者は八人。重軽傷者は三七〇人を超えたが、警察に届け出がなされたものは一六五人にとどまった。

犯行は「東アジア反日武装戦線」の一グループ、「狼」によるものだった。同戦線は「軍国主義への危険を阻止する」と布告、首都圏の企業を標的に爆弾テロを続ける。被害に遭ったのは帝人中央研究所、大成建設、鹿島建設、間組本社、同大宮工場など合計一一ヵ所。

この連続企業爆破事件に対し警視庁は、五〇年五月一九日、「東アジア反日武装戦線」のメンバー八人を一斉検挙。その中には「狼」の大道寺将司（二六）、大道寺あや子（二六＝昭和五二年日本赤軍により奪還、海外逃亡中）、片岡利明（二六）、佐々木規夫（二六＝昭和五〇年日本赤軍により奪還、海外逃亡中）、荒井まりこ（二四）らも含まれていた。

五四年一一月一二日、一審判決では大道寺と片岡（益永と改姓）に死刑、荒井には懲役八年が言い渡された。被告らは控訴、上告したが、六二年三月二四日、最高裁は上告棄却。大道寺被告は再審請求したが平成三年六月二八日、最高裁は特別抗告を棄却した。

ガラス片は風化せず

爆破直後は厳重な手荷物検査が実施された三菱重工ビルだが、現在はどうなっているか。行ってみると、隣の三菱ビルと一階連絡通路でつながり、自由に通行できる。警備員が要所に立っているが、「テロ」への緊張感は感じられない。

同社総務部・増山泰之総務課長（四五）に当時と現状を訊いた。

「事件後、入館証を発行するなど入館手続きを厳しくしていましたが、昭和五七年に廃止しました。ここは営業主体のビルですし、お客様にお手数をかけることは避けたいと考えたのです。現在ビル内外は常時警備員がパトロールし、不審物がないかどうか点検しています」

過激派の爆弾テロはとうに沈静化した。三菱重工社員にとって、あの事件も風化しつつあるのだろうか。

「最近になってある特別顧問が退任するにあたって、柔らかい布に包まれたものを『今後は君の方で保管しておいてください』と手渡された。何だろう、と開いてみると、あの爆破で割れたガラスの破片でした。二三年間、大切に保管されていたのです。ほかにいっさい説明はなかったのですが、私が察するに『事件を風化させるなよ』という意味でしょう」

社内には、あの爆破によって負傷した社員がまだ数人勤務しているという。

毎日新聞社

▲爆破直後のオフィス街では、即死者の収容もままならなかった。

初日の売り上げは50万4000円 〝24時間都市〟時代を先取りした「セブン-イレブン」1号店オープン

▲豊洲の1号店は、大通りに面した角地にあり、店舗面積は24坪。当時周辺の買い物客数は比較的少なかったが、初日は切れ目なく客が入った。　セブン-イレブン提供

日本最初のコンビニエンスストアが東京・深川にオープンした。朝七時から夜一一時までという長時間営業と、「必要な品が何でもそろう」が売りものだった。〝二四時間都市〟が本格化し、ファーストフードなどオリジナル商品のヒットが重なり、コンビニは次第に国民生活になくてはならない存在となっていった。

親会社の反対をおさえ難産のすえのスタート

一二個の花輪に飾られたセブン-イレブン一号店のスタッフは、不安と緊張に包まれていた。昭和四九年五月一五日午前六時すぎ、折悪しく雨天で、客足が遠のきがちな空模様だった。東京・江東区豊洲の酒販業山本茂商店の若き店主・山本憲司（二三）から、セブン-イレブン・ジャパンの前身であるヨークセブンに、コンビニ出店の打診があってから五ヵ月たらずで、オープンの日を迎えたのである。

それまでの倉庫のような店舗が、明るく、チリひとつなくリメークされ、品揃えも鮮度もアップし、二四坪の売り場は面目を一新していた。開店時間直前の六時半頃、中年の男性が一人でやって来て、サングラスをひとつ買っていった。日本のコンビニ第一号の客である。心配をよそに、昼間は客足がとだえず、夜九時すぎに一段落し、この日一日で五〇万四〇〇〇円を売り上げた。東京都の小売店（飲食店をのぞく）の売り上げが、一日一〇万円強だった時代である。

「酒の値段は公定価格のようなものだから、売り上げ自体はそれほどふえない

このままやっていくのはどうかな、という気持ちがあって、その時新聞でヨークセブンの記事を見て、私なりにひらめくものがありました。出店にあたって、身分不相応な借金をして店舗を改装したし、ふるえる面はあったけど、すべて計算できてスタートする事業などないでしょう」と山本氏は自身の〝決断〟を振り返る。

だが、セブン-イレブンのスタートに対しては、親会社であるイトーヨーカ堂社内からも激しい反対論があるなど、難産のすえのスタートであった。

「いまさら、町の雑貨屋のような小さな店を、チェーンで展開するのか」「朝七時から夜一一時まで営業するというが、お客は昼間しか来ないのでは」

こうした反対論に、単身矢面に立って反論していたのが、四二歳の平取締役だった鈴木敏文（現セブン-イレブン・ジャパン会長、イトーヨーカ堂社長）だった。鈴木の主張はこうだ。

「都市生活者の生活スタイルは激変しつつある。昼夜の別なく働き、起きている。また、夫婦共稼ぎの激増はさらに続く。なのに小売業はこれに対応できていない」

要するに、都市を中心とした消費者のライフスタイルの変化に、流通の側が十分に対応できていないばかりか、商店の生産性がきわめて低く、ユーザーニーズに合っていないというのである。

だが、どんなモノをどう売ったらいいのか、当事者たちも確たる方針は持っていなかった。コンセプトとしては、「起きてから寝るまでに必要なものが手近で何でもそろう」というものだった。

創業以来のメンバー、清水秀雄（現・セブン-イレブン・ジャパン副会長）が言う。

「セブン-イレブンの親会社であるアメリカのサウスランド社は、三〇〇〇種程度の商品を置けと言う。それで、ヨーカ堂の食品売り場の全リストを作り、補充頻度の高いモノをひとつひとつあげていきました。ですから、スタート時のセブン-イレブンの品揃えは、日用雑貨に加え、スーパーの売れ筋商品というラインアップでした」

現在、一号店の店頭に並んでいた商品のリストは残っていない。だが、清水らの記憶の中には、電球や乾電池、ラーメン用の鍋やドンブリ、さらには停電用の蝋燭、ヒューズまでが並んでいたという。

コンビニは今や巨大情報産業に

ミニスーパーのような品揃えで出発したコンビニは、その後、独自のアイテムや方法を次々と生み出し、一挙に加速度がつく。その第一弾は、おにぎりだった。それまでもおにぎりは一部で売られていたが、売り上げは低迷していた。それをコンビニの大ヒット商品に押し上げたのはやはりセブン-イレブンだった。「手巻きおにぎり」が売り出されたのは昭和五三年。これと弁当という二大ヒットに続き、おでん、総菜、浅漬け、小分けそばと独自開発のファーストフードが連続してヒットする。スーパーの食品アイテムが素材から調理済みにまでわたっているのに対し、コンビニは、手をかけずに食べられる食品にしぼって差別化に成功し、コンビニを都市の中に完全に定着させる原動力となった。

さらにセブン-イレブンは宅急便、コピーサービスに続き、昭和六二年からは公共料金の収納代行サービスを開始した。二四時間、料金の支払いができることが受け、今では、約三八〇〇万件、金額にして約二〇〇〇億円近くを扱っている。

このほか、従来の物流システムの抜本的改革を進めたのもコンビニだった。開店当時は、一日に七〇台もの配送車がやって来たが、今では共同配送の導入で九台へと激減。当然輸送コストも大幅にカットされている。

こうした背景にあるのがコンピュータシステムである。すべての店舗で何が売れたのかを、数時間後には掌握できるシステムによって、売れない商品はただちに排除され、一年間に七割の商品が入れ替わる。つまり、コンビニは今や一大情報産業にほかならない。

平成九年二月期のコンビニ御三家（セブン-イレブン、ローソン、ファミリーマート）の売り上げは三兆二〇〇〇億円に達し、全国では四万八〇〇〇店のコンビニが生まれ、さらに年間二〇〇〇店ペースでふえ続けようとしている。

セブン-イレブン提供

▲山本茂商店はオープンに向けて、酒、つまみ、缶詰など在庫の整理を。▼改装工事は約3ヵ月かかり、セブン-イレブンの社員は総出で応援した。

◀昭和58年当時、売れ筋だったオリジナル商品。定番のおにぎりや弁当、ハンバーガーのほかに、アイスクリームやシャーベット、コーヒーなども登場している。

セブン-イレブン提供

▶セブン-イレブン設立の中核となった鈴木敏文代表取締役会長。

セブン-イレブン提供

▲他に先駆けて始めた電気、ガス、電話などの料金収納代行サービス。国際電話のプリペイドカードの販売も行っている。

チェーン全店売上高と店舗数の推移

売上高推移（億円）：16,000 14,000 12,000 10,000 8,000 6,000 4,000 2,000 0
出店実績（店）：0 2,000 4,000 6,000

平成8年 / 平成6年 / 平成4年 / 平成2年 / 昭和63年 / 昭和61年 / 昭和59年 / 昭和57年 / 昭和55年 / 昭和53年 / 昭和51年 / 昭和49年（年度）

▲**手作りヨットで世界一周（7月28日）**「信天翁二世号」で、一人航海を続けていた大阪府の青木洋さん(25)が、3年45日ぶりに堺市石津港に帰港した。無線機も積まず、天測だけの快挙だった。

▶**市川房枝再選（7月7日）**金権・企業ぐるみが横行した参院選で、ビラ・ポスターなし、資金もカンパを募る選挙戦を展開、全国区で2位当選した。写真はVサインで支持者に答える市川(81)。

▲**日航機乗っ取り（7月15日）**ナイフを持った男が大阪発東京行きの日航機をハイジャック。翌16日名古屋空港で犯人を逮捕、乗客ら83人は無事だった。写真は脱出用シュートでおろされる犯人。

▶**爆竹で開幕、中国展（7月13日）**大阪・千里の万博記念公園で、中国政府による初の中華人民共和国展覧会が開かれ、中国の産業や歴史などを紹介。人気は高く、この日だけで約2万人が訪れた。

▼**自衛隊機が民家に墜落（7月8日）**小牧基地のジェット戦闘機が、離陸直後民家に墜落し、機体の一部が近くの国道に飛び散って炎上、6人が死傷した。

▶**鳴門海峡、貨物船相次ぎ座礁（7月28日）**大分の「第十三海福丸」が孫崎灯台沖で座礁。付近に中国の「建設号」(上)が沈没しており、狭い航路の障害になった。

昭和49年7月

1（月）●新宿・渋谷など国電五駅で禁煙タイム開始。
2（火）●第一回日本人口会議開催（4日子どもは二人まで、ピル公認など大会宣言を採択）。●日教組、君が代反対・日の丸は自由と発表。
3（水）●栃木・群馬・埼玉三県で酸性雨を観測。
4（木）●自民党、「企業ぐるみ選挙」を批判した堀米正道中央選管委員長を東京地検に告発。
5（金）●運輸省、タンカーに油処理剤保有を義務づけ。
6（土）●台風八号、九州上陸（～8日一一人死亡）。
7（日）●第一〇回参院選。保革伯仲、市川房枝再選。
8（月）●小牧基地の自衛隊機が離陸直後民家に墜落。
9（火）●雷鳥保護のため立山に立入禁止区域を設定。
10（水）●鶴見俊輔・サルトルら三三人、「金芝河らをたすける会」を結成（13日死刑判決）。
11（木）●米下院司法委、ウォーターゲート事件の証拠資料公表（27日大統領弾劾訴追条項を可決）。
12（金）●副総理・三木武夫、田中首相の金権体質を批判し辞任（16日蔵相・福田赳夫も辞任）。
13（土）●米オカルト映画「エクソシスト」封切。各館に観客殺到し上映中止や機動隊出動騒ぎも。
14（日）●外務省、海外旅行者の非常識を公表。賭博に負けて狂言自殺、過密日程で心臓発作など。
15（月）●日航機、名古屋上空で乗っ取り（16日逮捕）。
16（火）●東京地裁、家永教科書訴訟で検定合憲と判決。
17（水）●大阪湾泉州沖に関西新空港建設と答申案決定。
18（木）●大阪・南区の派出所で拳銃が盗まれる（8月15日の朴韓国大統領狙撃に使用される）。
19（金）●最高裁、家事労働も金銭評価可能と初判断。
20（土）●国鉄湖西線、山科－近江塩津間が開通。
21（日）●さくらと一郎の歌う「昭和枯れすゝき」発売。
22（月）●閣議、生産者米価の三七・四％値上げ決定。
23（火）●ギリシャ軍事政権崩壊（12月9日共和制へ）。
24（水）●北の湖、二一歳二ヵ月の史上最年少横綱に。
25（木）●森下洋子、国際バレエ・コンクールで一位。
26（金）●人事院、公務員給与二九・六四％値上げを勧告。
27（土）●網走市で少数民族オロチョン族の「オロチョンの火祭り」開催。後継者なく今回が最後。●建設省、ツー・バイ・フォー工法を正式認可。
28（日）●手作りヨット「信天翁二世号」世界一周達成。
29（月）●日本ペンクラブ理事が金芝河事件は弾圧ではないと発言（司馬遼太郎ら脱会者が相次ぐ）。
30（火）●東京都、人口が戦後初めて減少と発表。
31（水）●東大名誉教授・末廣恭雄、サンゴの敵オニヒトデの電気による撃退実験に成功。

証言・あの日この日
團伊玖磨(50)

12月某日 <……さんは突然ポケットの中から何かを取り出すと、これ、團さんに上げましょう、とその何かを僕に手渡した。見ると、それは国鉄の切符を透明なプラスチックで覆ったキー・ホルダーだった。切符には、愛国から幸福ゆき　発売当日限り有効　下車前途無効　70円　愛国駅発行　49 10 21　と刷ってあり、本物の乗車券だった>（團伊玖磨『なおパイプのけむり』）

北海道の帯広と広尾を結ぶ国鉄広尾線にあった愛国駅─幸福駅間の切符は、この年の春頃から土産物として大ブームとなる。テレビのコマーシャルにも登場する。6月から11月までの間に約435万枚が売れ、売上収入は2億8000万円におよんだ。しかし年間で8億円の赤字を出しているローカル線だったので、その売り上げも、全体から見れば、焼け石に水だった。（坪内祐三）

▲**銚子商、故郷へ優勝旗（8月21日）**夏の甲子園大会決勝は、千葉の銚子商が、エース土屋の投打にわたる活躍で山口の防府商を圧倒、7対0で初優勝した。写真は市内をパレードする銚子商ナイン。

◀**日教組大会に右翼団体集結（8月27日）**東京・立川市で開かれた第45回定期大会に、90団体の宣伝カー135台が押しかけ、正午までに13人が逮捕された。

▼**警察庁、暴走族の取締り強化（8月3日）**全国817グループ、2万6000人の対立抗争は火炎瓶、鉄パイプを使うまでに激化していた。写真は第三京浜国道での検問。

▲**女生徒人質事件（8月26日）**新潟県寺泊町の国鉄桐原駅で、刃物を持った男が女生徒を人質にトイレにたてこもり、500万円と車を要求。車に乗る瞬間逮捕されたが（写真）、女生徒は首に重傷を負った。

昭和49年8月

1（木）●川崎市、テレビ、クーラーなど家電製品のPCB部品回収義務化をメーカー一七社と協定。
2（金）●市原市の浮島石化エチレンセンター着工認可。
3（土）●少女売春が一一三件、前年から倍増と警察庁。
4（日）●産業用ロボットが八〇〇〇台超えると新聞に。
5（月）●警察庁、参院選の選挙違反検挙者は八八一九人で前回の一・六倍、買収が倍増と発表。
6（火）●前月の電気需要は一六年ぶり低下と電事連。
7（水）●東京地裁、日本人スチュワーデスを太りすぎで解雇したエール・フランスに不当の判決。
8（木）●ニクソン米大統領、全米向けテレビ放送でウォーターゲート事件により辞任と発表。
9（金）●沖縄県、米軍の日本人従業員一〇六二人の解雇通告書を返上し、解雇手続きを拒否。
10（土）●日本近距離航空、運航開始。新潟－佐渡間など。
11（日）●山形空港まつりでスカイダイバーが墜落死。
12（月）●経団連、国民協会による自民党の政治資金集めへのいっさいの事務処理返上を決定。
13（火）●東海地方初の浜岡原子力発電所が発電開始。●東京電力、政治献金停止・国民協会脱退を決定。
14（水）●糸山英太郎派選挙違反で義父の笹川了平逮捕。
15（木）●韓国大統領朴正熙、在日韓国人・文世光に狙撃され、夫人の陸英修が被弾して死亡。
16（金）●津川雅彦・朝丘雪路の長女誘拐犯を逮捕。
17（土）●ベンチャー・ビジネス育成の財団設立決定。
18（日）●八五％の家庭で節約を実行と総理府世論調査。
19（月）●中ピ連、浮気した夫の会社に押しかけ「離婚するなら全財産を妻へ」と抗議行動。
20（火）●四〇～五四歳の独身女性は、収入低く四二・六％が将来に大きな不安、と都の実態調査。
21（水）●中国の人口は八億人と初めて公表。
22（木）●厚生省、発癌性ある殺菌剤AF2を全面禁止。
23（金）●通産省、東京瓦斯の四六・八％値上げを認可。
24（土）●陸奥湾沿岸の漁民、二〇〇隻の漁船団で原子力船「むつ」の出航を阻止（26日出航）。
25（日）●水俣病で一八年危篤状態の松永久美子が死去。
26（月）●東証一部のダウ平均続落で四〇〇〇円割る。
27（火）●韓国政府、日韓貿易会議の無期延期を通告。
28（水）●平塚市の団地でピアノ騒音から殺人事件。
29（木）●宝塚歌劇団、長谷川一夫演出の「ベルサイユのばら」を宝塚大劇場で初演。
30（金）●東アジア反日武装戦線、丸の内の三菱重工ビルを爆破。八人死亡、三七六人負傷。
31（土）●男子平均寿命七〇・七歳で欧米抜くと厚生省。

読売新聞社

◀**多摩川決壊(9月1日)**台風16号の影響で、東京・狛江市付近の堤防が決壊、3日までに民家18戸が流された。住民は後に河川管理の手落ちとして、国に損害賠償を求めた。

読売新聞社

▲**野球賭博で犯人逮捕(9月4日)**大阪府警は、大阪球場で行われた南海対近鉄の試合中、胴元4人と客9人を逮捕(写真)。賭け金は一人1万円以上、10億円を動かしていた。

読売新聞社

◀**米価大幅値上げに抗議(9月3日)**36パーセント値上げを審議する米価審議会に対し、主婦連などが、会場の東京・九段の農林省分庁舎前で抗議集会。しかし、政府は6日に32パーセントの値上げを強行した。

▼**日本赤軍、大使館占拠(9月13日)**オランダの仏大使館を占拠した3人は、17日パリに拘留中の山田義昭とともに(写真)、シリアに脱出。

WWP

WWP

▶**日中定期航路開く(9月29日)**東京—北京間を4時間25分で結び、週4往復する。日中国交回復2周年目のこの日、日航1番機が北京へ、中国民航機も訪日団98人を乗せ羽田に到着した(写真)。

◀**ハイレ・セラシエ皇帝追放(9月12日)**エチオピアの革命を進める国軍調整委員会は、皇帝(84、写真)に退位を通告、アフリカ最古の絶対君主制は姿を消した。翌年、幽閉されたまま病死した。

読売新聞社

昭和49年9月

1(日)●原子力船「むつ」、太平洋上で放射線漏れ。
●豪雨による小河内ダム放水のため狛江市で多摩川決壊。一八戸流出(6日仮堤防完成)。
2(月)●国鉄、国電にシルバーシート設置を決める。
3(火)●ダイエーと資生堂、再販対象外の化粧品(一〇〇一円以上)の一部値下げに合意と発表。
4(水)●民間平均年収一四六万円、二〇㌫増と国税庁。
5(木)●全国二六PCB汚染水域で漁獲規制と環境庁。
6(金)●仏政府、日本赤軍が蜂起計画、と映画評論家・松田政男ら在パリの日本人八人を国外追放。
7(土)●「ワシントン・ポスト」紙、CIAがチリの反アジェンデ・クーデターを支援と暴露。
8(日)●川内市長選で原発反対派が現職の五選阻止。
9(月)●東京の鶏卵相場が過去最高。一〇個二七〇円。
10(火)●ラロック米退役海軍少将、米議会で「米艦は日本寄港の際も核をはずさない」と証言。
11(水)●在京民放五社、深夜放送自粛の撤廃を決定。
12(木)●エチオピア皇帝廃位。最古の王制が終焉。
13(金)●オランダのハーグで日本赤軍が仏大使館襲撃(17日人質解放しシリアに脱出)。
●産業構造審、知識集約型産業への転換を提唱。
14(土)●ソウルの日本大使館に二万人が反日デモ。
15(日)●全国高齢者大集会、一万人参加し東京で開催。
16(月)●陸奥湾岸漁民、「むつ」帰港阻止に海上封鎖。
●フォード米大統領、ベトナム徴兵忌避に恩赦。
17(火)●帝銀事件の平沢貞通、渋谷で初の個展を開催。
18(水)●公取委、企業分割など独禁法強化試案を発表。
19(木)●椎名悦三郎、日韓関係打開の特使として訪韓。
20(金)●郵政省、全国二万一〇〇〇の郵便局オンライン化に来年度着工と発表。
21(土)●通り魔犯罪被害への国家補償求め、京都と横浜の団体が全国組織化めざし合同を決定。
22(日)●早大で学徒出陣組が三〇年ぶりの卒業式。
23(月)●総理府推計で九月末に人口が一億一〇〇〇万を突破、世界人口の三㌫占める、と新聞に。
24(火)●東証でコンピュータによる株価自動表示作動。
25(水)●育英会、在日朝鮮人にも奨学金貸与と発表。
26(木)●東京消防庁、救急車の心電図電送を開始。
27(金)●都公害研、初めて航空機使い酸性雨雲の調査。
28(土)●韓国政府、大統領狙撃事件で関釜フェリーによる日本の自動車乗り入れ禁止を通告。
29(日)●日中定期航路開設。東京—北京で相互運航。
30(月)●名古屋高裁、名古屋放送の女性三〇歳定年制を違法と判決。

WWP

▲**モハメド・アリ(32)、奇跡の復活(10月30日)**ザイールのキンシャサでの世界ヘビー級タイトルマッチで、チャンピオンのフォアマンを8回KO。1967年に徴兵拒否でタイトルを剝奪されてから、7年ぶりの復活だった。

久保靖夫

▲**ミニスカート退潮(10月)**10年近く続いたミニにかげりが見え、この年、復古調や自然志向のフォークロア調、女性らしさなどが強調され、ロングスカートに編み上げブーツ、ロングマフラーが人気となった。写真は東京・原宿で。

▼**ソウルでホテル火災(10月17日)**繁華街にある8階建てのニュー南山観光ホテル4階から出火、日本人4人を含む64人が死傷した。写真は飛び降りる女性を助ける消防士。 WWP

朝日新聞社

▲**家庭用砂糖、突然値上げ(10月27日)**値上げを見こんで、消費者の買い急ぎが目立ったため、品不足のパニックを懸念した政府は、24パーセントの値上げを実施した。

読売新聞社

▲**日本ペンクラブ混乱(10月30日)**訪韓代表の「韓国に言論弾圧はない」の発言で紛糾していたが、この日総会で新加入の野坂昭如らが理事を追及、混乱した。

朝日新聞社

◀**サリドマイド訴訟和解(10月13日)**東京で原告団と国・大日本製薬の調印が行われた。賠償総額は23億円、サリドマイド児が生まれてから15年目だった。

昭和49年10月

1(火)●国鉄・医療費など公共料金一斉大幅値上げ。
2(水)●仙台市の瑞鳳殿地下で伊達政宗の遺体確認。
3(木)●日本建築学会、東京駅など大正・昭和初期の名建築一四〇〇件を発表。
●通産省、石油の備蓄量九〇日分を目標とする備蓄増強五ヵ年計画大綱を発表。
4(金)●東大名誉教授・団藤重光、最高裁判事に就任。大正生まれでは初めて。
5(土)●不動産業倒産相次ぎ、開発申請半減と新聞に。
6(日)●テレビアニメ「宇宙戦艦ヤマト」放映開始。
7(月)●日本電気、二万人の一時帰休実施を決定。
8(火)●前首相・佐藤栄作、ノーベル平和賞受賞と決定。
9(水)●立花隆「田中角栄研究—その金脈と人脈」掲載の「文藝春秋」発売。
10(木)●国連、南ア出場の全スポーツに参加拒否決議。
11(金)●いすゞ、GMとの共同開発車「ジェミニ」発表。
12(土)●中日が巨人の一〇連覇阻止し二〇年ぶり優勝。
13(日)●サリドマイド訴訟和解。国と大日本製薬が最高四〇〇〇万円、総額二三億円を賠償。
14(月)●長嶋茂雄、引退式で「巨人軍は永久に不滅です」と挨拶(11月20日巨人の監督就任)。
15(火)●巨人の王貞治、史上初の二年連続三冠王。
16(水)●『腹腹時計』など爆弾教則本出まわると新聞に。
17(木)●急増する豪向け自動車輸出を規制と通産省。
18(金)●チノン、同時録音八ミリカメラを販売と発表。
19(土)●松本清張原作の映画「砂の器」封切。
20(日)●北海道の国鉄愛国駅で、四月からの幸福駅行き乗車券発売数が三〇〇万枚突破。
21(月)●国際反戦デー。全国四五八ヵ所で二三〇万人。
22(火)●社会党の寺田熊雄、参院大蔵委で立花論文を取り上げ首相の金脈問題を追及。
23(水)●丸山千里、国際癌学会で丸山ワクチン発表。
24(木)●小澤征爾、国連デー記念し国連議場で指揮。
25(金)●四九年版『犯罪白書』。嬰児殺し一九六件など。
26(土)●鐘紡、繊維不況で五工場の半年間閉鎖を決定。
27(日)●化成品工業協会、かまぼこなどの合成着色料「赤色一〇四号」の製造中止と発表。
28(月)●東芝、中間管理職二五〇人を系列出向と発表。
29(火)●人気だったセントラルヒーティングが、石油高騰で低迷、部分暖房に逆戻り、と新聞に。
●一二月から公務員の給与が銀行振込と新聞に。
30(水)●モハメド・アリ、ジョージ・フォアマンを破り七年ぶりに世界ヘビー級王座を奪還。
31(木)●ヤマハ発動機、二輪車用低公害エンジン開発。

11~12月

毎日新聞社

▲フォード米大統領来日(11月18日)現職米大統領としては初の公式訪問。厳戒態勢下、5日間滞在して辞任間際の田中首相と2度会談したほか、天皇に会見(写真)、訪米を正式に要請した。

読売新聞社

▲本塁打王、夢の対決(11月2日) 715本の本塁打記録のハンク・アーロン(40)と、634本の王(34)の本塁打競争が後楽園球場で行われ、10対9でアーロンが勝った。

▶平沢貞通、26年ぶり獄外へ(11月15日)昭和23年の帝銀事件で死刑判決を受けた平沢(82)は、病状悪化のため、宮城刑務所から東北大病院に移送、38日間入院した。

読売新聞社

▶アラファトPLO議長、国連に登場(11月13日)「私はパレスチナに戻る」とアラビア語で宣言、国家独立を訴えた。総会は22日、パレスチナ人の民族自決権を承認した。

WWP

◀タンカー撃沈(11月28日) 9日浦賀水道でLPGタンカーと貨物船が衝突。タンカーの積み荷が爆発して消火できないため、この日自衛隊が艦砲射撃と魚雷で沈没させた。

読売新聞社

昭和49年 11月

1(金)●地域気象観測システム「アメダス」使用開始。●カシオ、初の液晶デジタル時計を発売。
2(土)●王貞治とH・アーロンが「ホームラン競争」。
3(日)●女性のアルコール中毒が急増、と新聞に。
4(月)●山梨県などの自然保護団体、スーパー林道建設反対で南アルプス自然保護連合を結成。
5(火)●ローマで世界食糧会議開幕。一三〇ヵ国参加。
6(水)●ハワイで米国初の日系知事G・アリヨシ当選。●最高裁、公務員の政治活動禁止は合憲と判示。
7(木)●政府、地震予知研究推進連絡会議を設置。
8(金)●府中の米軍司令部撤収、二〇年ぶり明け渡し。
9(土)●浦賀水道で大型LPGタンカーと貨物船が衝突し爆発。三三人死亡。
10(日)●札幌市の北海道神宮が放火され本殿全焼。
11(月)●田中首相、金脈問題で釈明の記者会見。
12(火)●鉄鋼五社、前年比四割増のボーナスを提示。
13(水)●アラファトPLO議長、国連総会で初演説。
14(木)●国内最大の福井・高浜原発、営業運転を開始。
15(金)●千葉県浦安町で東京ディズニーランド起工式。
16(土)●「ボーナスは貯蓄」が四四%と東海銀行調査。
17(日)●別府市で乗用車が海中に転落、母子三人死亡、父親は助かる(保険金三億円詐取事件)。●尾崎将司、ゴルフ日本シリーズ制し四大タイトルを独占。四年連続賞金ランキング一位。
18(月)●フォード大統領、現職として初の来日。
19(火)●「サッカーの神様」ペレ、青少年指導で来日。
20(水)●富士通と日立、IBMに対抗し世界最大規模のコンピュータ二機種を発売。
21(木)●米最大の自動車メーカーGM、九工場を閉鎖し三万人を一時解雇(米の自動車不況深刻)。
22(金)●高校進学率が初の九〇%を突破し九〇・一%、大学・短大進学率は三四・七%と文部省調査。
23(土)●共通一次模擬試験をマークシート方式で実施。
24(日)●米ソ首脳会談の最終日、第二次戦略兵器制限交渉(SALTⅡ)が大筋で合意。
25(月)●東京の杉並清掃工場建設問題が八年ぶり解決。
26(火)●田中首相、閣議で辞意を表明。
27(水)●東映、暴力団山口組との癒着問題で「山口組三代目・激突編」の製作中止を決定。
28(木)●東洋工業、自動車排ガス五一年規制値実現には二年の延期が必要と表明。
29(金)●京都市初の地下鉄、烏丸線が起工式。●米保険会社、日本初の癌保険を発売。
30(土)●米、日本のスケトウダラ漁獲量三割減を要求。

徳島新聞社

◀水島で重油流出(12月18日)岡山県倉敷市の三菱石油水島製油所のタンクに亀裂が生じ、重油約4万キロリットルが流出。数日間で備讃瀬戸から紀伊水道まで、岡山・兵庫など4県に広がり、漁業被害は86億円に達した。写真は回収作業をする漁業関係者。

▼三木内閣成立(12月9日)雑誌「文藝春秋」の記事をきっかけに、金権・金脈問題で総辞職した田中内閣の後を受け、社会的不公正是正、「クリーン三木」を強調した。写真は4日、東京・目白台の田中邸を訪れた三木。

読売新聞社

朝日新聞社

◀新幹線初の安全総点検(12月11日)東京―新大阪間で、39年の開業以来初めての総点検を始発から正午まで実施。3700人を動員し、レール、架線、車両などをチェックした。点検のため長区間にわたって運休するのは国鉄史上初めて。

▼台湾出身の元日本兵見つかる(12月25日)インドネシアのモロタイ島で、元陸軍一等兵の李光輝(55、中村輝夫)さんが収容された。昭和18年11月高砂挺身隊員として出征、20年3月の激戦を生きのび、密林に潜伏していた。

▼田中彰治議員に実刑判決(12月18日)衆議院決算委員長の地位を利用、虎の門事件、二重担保事件など、恐喝、詐欺、脱税容疑7件で起訴されていた。懲役4年の判決を受けて控訴したが、翌50年11月に死去した。

読売新聞社

昭和49年 12月

1(日)●自民党副総裁・椎名悦三郎、三木武夫を新総裁に推薦する裁定案を党内有力者に提示。
2(月)●単身赴任の徳島地裁所長、病死し官舎で発見。
3(火)●日本生命など個人用掛け捨て保険発売を決定。
4(水)●三菱長崎造船所でタンカー火災。六人死亡。
5(木)●青函トンネルで本工事初の大出水。毎分四ト。
6(金)●永六輔・野坂昭如・小沢昭一、武道館に一万人を集め「花の御三家大激突コンサート」。
7(土)●山口大教育学部、身障者不合格規定を撤廃。
8(日)●岐阜県穂積町の全国唯一の女性町長が八選。
9(月)●三木武夫内閣成立。副総理は福田赳夫。
10(火)●大成建設ビルで爆弾爆発。九人が重軽傷。
11(水)●ビルマ(現ミャンマー)政府、ウ・タント前国連総長の遺体を学生から奪取、戒厳令を発令。
12(木)●大島紬・南部鉄器など一二品目を初の伝統的工芸品産業に指定と審議会答申。
13(金)●経企庁、四九年のGNPは前年比一~二%減で戦後初のマイナス成長と閣議に報告。
14(土)●国連総会、沿岸・港湾封鎖、他国陸海空軍への攻撃など七項目の「侵略の定義」を採択。
15(日)●米英ソ中の戦後日本四分割案発見、と新聞に。
16(月)●結婚式が豪華に、一式二〇〇万円もと新聞に。
17(火)●加山雄三、一月のスキー場事故で、容姿は俳優の財産と三〇〇〇万円の損害賠償求め提訴。
18(水)●倉敷市の三菱石油水島製油所から重油流出。
19(木)●自動車工業会、四九年の生産は前年比七・四%減で初のマイナス成長と発表。
20(金)●市販洋菓子の半数以上が細菌汚染と都衛生局。
21(土)●仏映画「エマニエル夫人」封切。
22(日)●東京の荒川でイルカ三頭が浅瀬に入り死亡。
23(月)●メンソレータムの近江兄弟社が会社整理。
24(火)●富士通、米航空宇宙局と超大型コンピュータの納入契約が成立と発表。
25(水)●モロタイ島の密林で終戦以来潜伏の台湾出身元日本兵・李光輝(中村輝夫)を救出。
26(木)●ストリッパー一条さゆりに公然猥褻で実刑。
27(金)●警視庁、赤軍派の重信房子を国際指名手配。
28(土)●松本清張の仲介で共産党と創価学会が相互不干渉などの秘密協定を締結(創共協定)。
29(日)●厚生省、製薬業界に医師や病院に対する薬品のおまけつき販売自粛を通達。
30(月)●輸入食品が八年で倍増、有害品多いと新聞に。
31(火)●森進一の「襟裳岬」がレコード大賞受賞。●静岡県水産試験場でウナギの人工孵化に成功。

俄楽多市（がらくたいち）

◀1月4日、東京・池袋の東武百貨店は、生後4ヵ月の虎の子を2頭、福袋とともに売りに出し、1頭が売れた。 東武百貨店提供

流行語　おしゃれなポルノが登場

「ソフト・ポルノ」。女性向けポルノ映画のこと。この年、フランスのポルノ映画「エマニエル夫人」が公開され、ファッショナブルでロマンチックな内容が若い女性の人気を集めた。以後、女性向けポルノがソフト・ポルノとして定着し、「エマニエルする（行きずりの情事のこと）」という言葉も流行した。

「金権選挙」。七月、糸山英太郎参議院議員の大がかりな選挙違反が発覚、当選するため一〇億円もの金を使っていたことから金権選挙と呼ばれた。ただし彼だけが金権選挙だったわけではなく、当時は"五当三落（五億円使えば当選、三億円では落選）"と言われ、選挙そのものが金まみれだった。

「オヨヨ」。テレビの公開お見合い番組「パンチDEデート」で、司会者の桂三枝が連発したことから流行した。おやおやというのを大げさに表現したもの。

「アンシンジラブル」。信じられないという意味の若者用語で、高校生、大学生などが作る合成新語のひとつとして流行。

ファッション　バスト測定法の国際基準決まる

女性のバストをどのように測定するかは、国ごとに女性の願望の違いなどもあって微妙かつ深刻な問題である。国際標準化機構（ISO）ではこれまで数年にわたってカンカンガクガクの議論を重ねてきたが、このほど次のような統一見解を発表した。すなわち「直立した被計測体（女性）の通常呼吸時に巻き尺を肩甲骨より腋下にまわし、さらに突出部へめぐらせ、その最大の指示値をもってバストのサイズとする」というもの。これからはこの方法で測るよう、ISOでは世界数十ヵ国に勧告していくという。

（「週刊文春」九月一六日号）

▲松本零士作「宇宙戦艦ヤマト」の連載が、「冒険王」11月号からスタート。

CM100年

ポスター「海岸通りのぶどう色」（資生堂）

▲「レンガ通りの白い肌」のポスターとともに、ドラマ性のあるCMとして評判に。

データ　美空ひばりは二五〇万円　有名人の出演料には格差が

有名人の出演料には意外なほど差がある。おもな人の値段を拾ってみると――。

田中角栄首相＝テレビ座談会（三〇分）二万円。

淀川長治＝映画解説三万円。

美空ひばり＝興行（一日）二五〇万円。

渥美清＝テレビ（一時間ドラマ）一〇〇万円。

（「週刊平凡」七月四日号）

文化　赤ん坊に胎内音を……レコードがヒット

東芝EMIから四九年暮れ、胎内音レコード「ママのおなかの子守歌」が発売された。赤ん坊に母親の胎内音を聞かせて安心させようというもので、二〇分のLPで二八〇〇円。これが一年で一万七〇〇〇枚売れ、ヒットとなった。

（「週刊新潮」五一年一月八日号）

はやり歌

襟裳岬

作詞 岡本おさみ
作曲 吉田拓郎
編曲 馬飼野俊一

北の街ではもう
悲しみを暖炉で
燃やしはじめてるらしい
理由（わけ）のわからないことで
悩んでいるうち
老いぼれてしまうから
黙りとおした　歳月（としつき）を
ひろい集めて　暖めあおう
襟裳（えりも）の春は　何もない春です

君は二杯目だよね
コーヒーカップに
角砂糖をひとつだったね
捨てて来てしまった
わずらわしさだけを
くるくるかきまわして
通りすぎた　夏の匂い
想い出して　懐かしいね
襟裳の春は　何もない春です

ビクターエンタテインメント提供

▲この年のレコード大賞受賞。吉田拓郎らフォーク系コンビが作った歌を、森進一が熱唱した。

ふれあい

作詞 山川啓介
作曲 いずみたく

悲しみに　出会うたび
あの人を　思い出す
こんな時　そばにいて
肩を抱いて　ほしいと
なぐさめも　涙もいらないさ
ぬくもりが　ほしいだけ
ひとはみな　一人では
生きてゆけない　ものだから

空（むな）しさに　悩む日は
あの人を　誘いたい
ひと言も　語らずに
おなじ歌　歌おうと
何気ない　心のふれあいが
幸せを　連れてくる
ひとはみな　一人では
生きてゆけない　ものだから

日本コロムビア提供

▲日本テレビ系ドラマ「われら青春!」の挿入歌。主役の中村雅俊が歌ってミリオンセラーに。

三面記事　女性ドライバー恐るべし

月星化成提供

▲この年、月星化成は、乳児用靴「チロリアンベビー」を新発売。

〔大分発〕五月三〇日の夕方、大分市内の繁華街で、これぞ、女性ドライバーの典型というある"事件"が起こった。市内の主婦A子さん（三六）が車で信号待ちしているところへ、親友のB子さんの車が並んで止まった。懐かしかった二人は窓越しにおしゃべりしていたが、話がよく聞きとれないのでA子さんがB子さんの車の助手席へ。すぐに青信号に変わり、B子さんはA子さんとおしゃべりしながら車を発進。その後二人はたっぷりおしゃべりし、約一時間半後、A子さんはB子さんの車で送ってもらって帰宅した。その間、A子さんの車は交差点に置きっ放し、折からのラッシュと重なって、現場は大混乱におちいった。

警察が車を動かした後、A子さん方を訪ねたところ、A子さんは久しぶりに親友とたっぷりおしゃべりできて気分は浮き浮き、自分が車を運転していたことは、きれいさっぱり忘れていた。

（「大分合同新聞」六月一日）

第七〇回天皇賞レースに一四五〇万円賭けた男

競馬の第七〇回天皇賞レースは一一月二四日小春日和（こはるびより）の東京競馬場で行われ、九五億三四一九万円と過去最高の売り上げを記録した。レースは一七頭が出走、五番人気のカミノテシオが一着、二着に二番人気のイチフジイサミが入って連複4－7（当時は枠番のみ）、配当一七八〇円の中穴となった。

ところで、このレースで一人で一四五〇万円もの馬券を買った男性がいた。中年の紳士が馬主席がある四階特別売り場にやって来て、ボストンバッグから一万円の札束を無雑作に取り出すとカウンターに並べ、十数種の馬券を注文した。一枚の馬券の最高限度額は一〇〇〇円だから係員数人が計算室で懸命に馬券を作り、一万四五〇〇枚の馬券を段ボールの箱に入れて渡した。

ちなみにこの馬券、すべてがハズレだったという。

（森田一義監修『あの日何があったか？　昭和の珍事件集』）

▲開業10年を迎えた新幹線は、9月5日から食堂車の暫定営業を開始した。

祭り　パンティ捧げて不老長寿の祈願

日頃お世話になっている下着をうずたかく積んで、不老長寿を祈願するお祭りが九月一日、奈良県香芝（かしば）町（現・香芝市）の通称"腰巻寺"（阿日寺（あんにち））で行われた。重要文化財の丈六阿弥陀如来像（じょうろくあみだにょらい）の前に腰巻やパンティなどを積み上げて祈禱してもらうと不老長寿疑いなしという言い伝えがあり、パンツやパンティを抱えた善男善女で、境内は一日中にぎわった。

（「週刊アサヒ芸能」九月一二日号）

▶千葉県柏市の百貨店、柏そごうが、「おもちゃびょういん」を開設。

共同通信社

この年の初もの　女性専用ホテル京都にオープン

●オタマジャクシ用ペットフード　東京・日本橋三越で発売。原料は魚の粉と野菜で、一袋二五〇円。

●金属バット　日本高校野球連盟が使用を承認。夏の甲子園大会から登場。

●フィールドアスレチックス　神奈川県箱根町のレジャーランドに開設。

●X線による手荷物検査　大阪国際空港でスタート。

世界の動き

ウォーターゲート・ビル盗聴事件から二年
解明された"大統領の犯罪"
ついに、ニクソン辞任へ

▲ニクソン大統領は、ウォーターゲート事件の事実上の責任者として、議会による弾劾と国民の辞任要求に、ついに抗しえなかった。 WWP

WWP

▼ウォーターゲート事件で、相次ぐ特ダネをものし、陰謀のベールをはがしていったバーンスタイン（左）、ウッドワード（右）両記者。

一九七二年六月一七日に発覚した米国・民主党盗聴事件は、政府首脳を巻きこんだ世紀の一大スキャンダルに発展。ニクソン大統領はマスコミと議会の総攻撃を受け、ついにその座をフォードに引き渡すこととなった。アメリカ憲政史上に汚点を残した初の大統領辞任劇であった。

終始悲愴感が漂った一六分間の辞任演説

「私は国益のため"ウォーターゲート"に関連して、きわめて困難な決断をすることにした。私はけっして途中で逃げ出す人間ではないが、この場合はアメリカの利益が第一でなければならない」

第三七代大統領、リチャード・ニクソン（六一）は一九七四年八月八日、ホワイトハウスの執務室で、全米向けテレビ放送を通じて大統領としての最後の演説を行った。

午後九時（日本時間九日午前一〇時）から始まった演説で、ニクソンは対中国関係の打開、中東やソ連との緊張緩和など、外交にはたしたみずからの業績を誇示しながらも、感情をおさえるように延々と話し続けた。しかし、時折浮かべる笑顔は押し殺した苦渋（くじゅう）のため、すぐにこわばる。一六分間の演説には終始悲愴感が漂い、最後に「神の恵みが皆さんの上にあるように」と締めくくった。

ニクソンがホワイトハウスを去ったのは翌日のことであった。

最後の一夜を明かしたニクソン一家は九日午前九時（日本時間午後一〇時）、閣僚やスタッフに別れを告げ、南庭に用意されたヘリコプターに乗りこんだ。その時ニクソンはタラップ上で立ち止まり、見送りの人々に両腕を大きく上げ、Vサインを送ってみせた。

午前一〇時、ヘリコプターは上昇し、ニクソンは大統領から市井（しせい）の人となった。

「三流のこそ泥」事件が大統領辞任のきっかけに

そもそも、事件が発覚した場所は、ワシントン市の北西区にあるウォーターゲート・ビル六階の、民主党全国委員会事務局の部屋であった。

一九七二年六月一七日午前二時、ビルの夜警フランク・ウィルズは、地下室のドアの鍵に貼ってあったセロハンテープを不審に思い警察に通報した。警官が各階を捜査するうちに、部屋に忍びこみ、盗聴装置を備えつけていた五人を発見、現行犯で逮捕した。

一味は盗聴用具と盗聴装置、トランシーバー、カメラ、指紋を隠す手術用手袋、そして、真新しい一〇〇ドル紙幣で計六〇〇〇ドルなどを所持。主犯は、FBIとCIAの要員を経て、ニクソン大統領の選挙運動母体であるニクソン再選委員会の警備主任となったジェームズ・マッコード（四九）、部下の四人は亡命キューバ人でCIAの下働きをつとめたことのある面々であった。

そして捜査が進む中、五人組のメモから再選委員会財政担当顧問のゴードン・リディ（四二）と元CIA、FBI職員のハワード・ハント（五四）が逮捕された。その後の裁判で、盗聴の事実が明らかになったが、自供なしで真相が解明できないまま、翌七三年一月三〇日、ワシントンの連邦地方裁判所において七人に

ユニフォト・プレス

▲民主党全国委員会事務局のあるウォーターゲート・ビル。1972年6月、この建物に5人の男が侵入、逮捕されたことから事件が発覚した。

外から見たNIPPON

タイの知識人・スラックが一喝した「エコノミック・アニマル」

――佐伯 修

この年一月、東南アジア五ヵ国歴訪の旅に出た田中角栄首相は、訪問先で、日本企業の「経済侵略」に対する抗議行動に遭った。特に、タイとインドネシアにおける反日デモは激しく、死傷者も出る騒ぎとなった。日本人は、経済効率を盲目的に追求する「エコノミック・アニマル」だとする批判は、世界中に広まった。

そんな中で、六月、東京で「東南アジアの反日感情」に関する「現地知識人講演会」が開かれ、タイの評論家スラック・シヴァラックは「私はアメリカ人に次いで日本人が攻撃の対象になることは四年前から警告していた」と前置きして、次のように日本を批判した。

「確かにタイの国内市場は狭く、日本人のよくつき合う政治家は腐敗している。それにわいろを使ってもぐりこみ、短期間に多くのものを吸い上げようとする。その投資も日本人の側に有利なものばかりだ。その市場を失っても残念に思う人は少なく、タイが必要としているから困るのはタイではないかと居直る人も見られる。それがインドネシアだと事情が違い、長期的な政策にもとづいて行動しなければと思っているようだ。日本人のそうした利己的な利益追求を知識人ははっきりと見極めている」（「朝日新聞」六月一七日夕刊）

一九三三年生まれのスラックは、英国に留学したタイの超エリートだが、仏教や王制を尊重しつつ、終始ラディカルなリベラリストとして反独裁・反特権階級支配の論陣を張ってきた、在野精神にみちた言論人。この講演会における、以下のような発言にも、そうした彼の姿勢がうかがわれる。

「（日本の政界・財界のリーダーは）人と人との交流を深め、社会の連帯を強め、真の抑圧者はだれかを発見しなくてはならない」

「（日本は）富めるものも貧しくなることを受け入れなくてはならない。そして伝統的なものにもっと目を向けていくことが必要だ。それはすぐ役立たなくても長期的にみなくてはならない」

アジアの連帯をうたいつつ、アジアを戦火にさらした日本は、戦後、一転して欧米にすり寄り、アジアから眼をそらした。それでいて、いつのまにかアジアに対して尊大になった日本を、スラックは一喝した。

その後、タイも、高度経済成長をとげ、自国の〝バーツ経済圏〟を周辺諸国にまで広げた。スラックの日本への警告には、いまやタイ自身も検討すべき点が出てきているかもしれない。

▲「社会科学評論」を創刊。　朝日新聞社

対し懲役六年八ヵ月〜四〇年、罰金五万ドル以下の判決が下ったのである。

ホワイトハウスの報道官は、この事件を「三流のこそ泥による侵入」であるとして、その関連を否定したが、マッコードが「黒幕が暴露されていない」と、事件にホワイトハウスが関係していることを判事に告白、容疑はニクソン大統領の足元にまでおよんでいった。

この間、「ワシントン・ポスト」紙の新進記者、カール・バーンスタインとボブ・ウッドワードらの執拗な追及により、ニクソン派に対する数百万ドルのヤミ献金、民主党の次期大統領候補・マスキー上院議員派に対する性的スキャンダルのでっちあげなど、ニクソン再選委員会の汚い手口が次々に暴露され、それを必死でもみ消そうとする大統領の姿が浮かび上がってきた。

窮地に立ったニクソン側は、側近のホールデマン、アーリックマン両大統領補佐官の辞任、ディーン法律顧問の解任を発表。一方で、上院の大統領選挙活動調査特別委員会が、五月一七日より、テレビの完全実況中継放送のもとに、全世界が見守る中、公聴会を開催した。

ニクソン再選委員会の委員長ジョン・ミッチェルをはじめ元大統領補佐官など……人の証言は相矛盾し、相互に誹謗中傷する場面もあったが、盗聴工作、もみ消し工作の事実はほぼ明らかになった。

バーンスタインとウッドワードの共著『大統領の陰謀』（文春文庫）の翻訳者である常盤新平氏は、「アメリカ人の国民性とも言える〝真実〟に対する欲求が、大統領の欺瞞とあいまいな態度に対する怒りとなったこと。そして無名だった『ワシントン・ポスト』紙の若い二人の記者が政治や権力と無縁なところで真実を追求し、ジャーナリズムのあるべき姿をさし示したことが全容解明につながったのです」と語っている。

七三年末になるとニクソンの辞任を求める声は一層強まった。七四年の七月には、弾劾決議が下院本会議で可決される可能性が高まり、最後まで強気だったニクソンも、辞職を決意するまでに追いつめられたのである。

R・M・ニクソン（1913〜1994）
米国の政治家。一九三七年弁護士開業。四六年共和党から下院議員に。六八年第三七代大統領に就任し、七四年ウォーターゲート事件で辞任。

侵入事件の逮捕者7人

WWP（七枚とも）

▶バーナード・バーカー

▶ジェームズ・マッコード

▶ユージニオ・マルチネス

▶ゴードン・リディ

▶バージリオ・ゴンザレス

▶ハワード・ハント

▶フランク・スタージス

往きて還らぬ

▲6月21日　小唄勝太郎（69）
芸者から歌手となり、昭和8年「島の娘」「東京音頭」が大ヒット。市丸と人気を二分した。（左から二人目）

▲3月27日　清水崑（61）
マンガ家。政治・風俗マンガが得意で、昭和28年「かっぱ天国」を雑誌に連載、河童のキャラクターが人気に。

▲1月11日　山本有三（86）
小説家、劇作家。大正10年『嬰児殺し』で注目を集め、昭和40年文化勲章受章。代表作に『路傍の石』『真実一路』など。

▲5月19日　南原繁（84）
政治学者、元東大総長。専門は政治学史で、著書に『フィヒテの政治哲学』など。趣味の短歌でも知られる。

▲7月25日　花菱アチャコ（77）
漫才師。昭和5年横山エンタツと組んだしゃべくり漫才で人気を集め、戦後は映画や舞台で喜劇俳優として活躍。

▲8月26日　C・リンドバーグ（72）
アメリカの飛行家。1927年初の大西洋横断無着陸飛行に成功した。回想録に『翼よ、あれがパリの灯だ』がある。

▲2月19日　岩田専太郎（72）
画家。大正9年「講談雑誌」を舞台に仕事を始め、吉川英治・大佛次郎などの小説の挿絵で名声を確立した。

▶5月24日　デューク・エリントン（75）
アメリカのジャズ・ピアニストで、作曲家。「A列車で行こう」「キャラバン」など多くのヒット曲がある。

▲3月1日　田中耕太郎（83）
法学者、元東大教授。文相、最高裁長官などを歴任し、昭和35年文化勲章受章。著書に『世界法の理論』など。

▲5月31日　木村伊兵衛（72）
写真家。昭和の写真界のリーダー。スナップ写真を得意とし、日本写真家協会の初代会長に。写真集『秋田』など。

いわさきちひろ絵本美術館提供

▲8月8日　いわさきちひろ（55）
童画家、絵本作家。独特の色彩感覚で子どもや自然を描きファンを魅了。童画集『戦火のなかの子どもたち』など。

▲11月13日　V・デ・シーカ（72）
イタリアの映画監督。イタリアン・ネオリアリズムの代表的存在で、作品に「靴みがき」「自転車泥棒」などがある。

ミニ事典
1974年のキーワード

狂乱物価
石油危機にともなって生じた激しい物価高騰。日本銀行が一月一一日、四八年一二月の卸売物価指数が対前年同月比二九パーセント高、終戦直後並みの暴騰を示したと発表したのに対し、翌日、福田赳夫蔵相が「狂乱状態だな」と言ったのが由来。原因は石油の値上がりばかりでなく、企業の売りおしみ・買い占め・便乗値上げなどの横行にあった。

電力使用制限令
政府は一月一六日、第二次資源節減対策として電力使用制限令を発令、供給量削減を一五パーセントに強化した。対象は工場など大口需要家が中心で、ネオンの消灯、エスカレーター停止から、百貨店・スーパーの営業時間短縮、国電の暖房停止におよんだ。またテレビの深夜放送中止といったように、キャンペーン色の強い制限令だったが、これを契機に企業による商品開発が活発になり、電気やガスの大幅値上げもあって、本格的な〝省エネ〟が進められた。

毎日新聞社
▲電力使用制限令によって、東京・銀座のネオンが一斉に消えた。10月6日の大銀座祭りを機に復活するが、最盛期の6〜7割程度だった。

大規模小売店舗法
地元の中小小売店を保護するため、大型スーパーなどの出店を規制する法律。三月一日施行。略称、大店法。進出のさかんな大型スーパーが、従来の百貨店法の対象外だったため、それに代わって制定された。店舗面積一五〇〇（政令指定都市では三〇〇〇）平方メートル以上の出店は届出制、通産大臣は地元商店の意見などに基づき、面積などの削減を勧告・命令することができるとした。

民青学連事件
韓国のソウル大を中心に、激しさを増す朴正熙大統領独裁反対運動に対し、韓国政府は四月三日から、これを組織した全国民主青年学生総連盟（民青学連）の関係者を次々に逮捕、死刑を含む厳罰でのぞんだ。早川嘉春、太刀川正樹の日本人二人も含まれ、七月一五日には朝鮮総連のスパイとして、軍法会議で懲役二〇年を宣告されたが、国際的な救援運動で、翌年二月一七日に釈放された。また死刑判決を受けた韓国の詩人・金芝河らも同じ日に釈放された。

日本消費者連盟
消費者の利益を擁護し、生活の安全と向上をめざして活動する団体。竹内直一を代表委員に五月一八日、全国組織として発足。石油危機後の企業の売りおしみ・買い溜めに対して企業告発、不買運動などを展開、また、人工食品添加物・合成洗剤の追放などにも積極的に取り組んだ。

共同通信社
▶五月一八日、自治労会館で日本消費者連盟が発足、記念集会が開かれた。

AF2全面使用禁止
合成殺菌・防腐剤として豆腐、ハム・ソーセージ、かまぼこなど魚肉練り製品に広く使われてきたAF2が八月二七日、発癌性があるとして全面使用禁止と決定され、猶予期間をおいて一〇月一日から実施された。厚生省は人工食品添加物に対する消費者の厳しい追及を受けて、五月には三七品目を対象に使用基準再点検に乗り出すと発表していた。

教師聖職論
教師は神聖な役割を担っているとする考え。年来の自民党の主張だったが、四月一七日に共産党が日教組のスト強化路線に反対して教師には聖職的な側面があると発表、八月二七日に日教組大会で槙枝元文委員長が共産党の見解を批判したため、大論争となった。共産党は教師が子どもの人格形成に与える影響を強調、「教師労働者」論に立つ社会党・日教組主流派は、聖職論が教育の国家統制を強化してきたと反論した。

ラロック証言
日本への核兵器持ちこみに関して、米海軍ラロック退役少将が九月一〇日、米議会で「核搭載艦艇が、わざわざ核を搭載しないで日本に寄港することはない」と述べた証言。一〇月六日に議事録が公開されると、日米両国政府ともこれを否認したが、核兵器の専門家でもある元高官の証言だけに信頼性は高く、日本政府の非核三原則への不信は一層、募った。

毎日新聞社
▲核疑惑の米空母「ミッドウェー」寄港反対闘争が10月11日に行われた。

日照権
日光を享受する権利。都市の密集化・高層化にともない昭和四〇年代頃から社会問題化。四七年には最高裁が法的保護に値する権利として認める判決を下し、この年九月三〇日、札幌地裁は札幌住民が起こした日本住宅公団に対する損害賠償訴訟で公団敗訴の判決を下した。翌年、建設省、道路公団、国鉄は公共施設による日照権侵害の補償基準を作成、日照権の社会的認知が急速に進んだ。

アメダス
気象庁の地域観測システム。局地的集中豪雨の観測のため、一一月一日から運用。全国約一三〇〇ヵ所に配置したロボット気象計などから送られてくるデータを、地域気象観測センターがコンピュータで解析、広い地域にわたる気温、風向と風速、降水量、日照、積雪量などを瞬時に明らかにする画期的システム。細域観測網としては世界随一だった。

マイナス成長
国民総生産（GNP）が前年比より減少すること。一二月二三日、経済企画庁長官・福田赳夫が閣議に、昭和四九年のGNPが前年比一・〜二パーセント減少することを報告。これで、一〇パーセントを上回る高度成長を続けてきた日本経済が、ついに戦後初のマイナス成長に突入したことが明らかになった。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1974

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室・渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 ㈲エービーシープレス ㈲カマル社 ㈲コミュニケーシ…
ヨシハウス・ケースリー シト・プロ ㈲マックス ㈲マライカ
小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘
結城順一 吉田忠正

●写真協力
飯田守 池田理代子 井上一郎 久保靖夫 熊切圭介 鈴木敏文
平田一八 松本零士 吉田敏昭 朝日新聞社 共同通信社 コリ…
アン・リソース・ネットワーク 東亜日報 徳島新聞社 日刊ス…
ポーツ 毎日新聞社 ユニフォト・プレス 読売新聞社 WWP
資生堂 セブン イレブン 月星化成 東武百貨店 東宝 日本コ…
ロムビア ビクターエンターテインメント
いわさきちひろ絵本美術館 日本女性マナスル登山隊 ルーブル美術館

雑誌 23705-9/30 T1123705090561
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社